

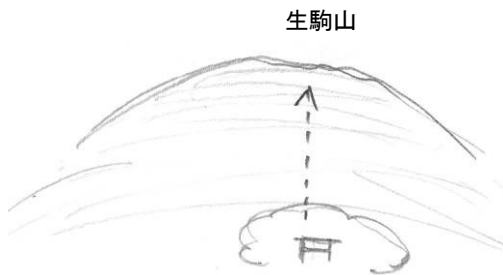
表 生駒らしい景観パターン

	パターン	景観の構成原理				
		地勢	地域性			暮らしの 営み
			歴史文化 の文脈	市街地開 発の文脈	界隈の 空気	
都市	1 生駒山への意識	○	○	○		
	2 生駒山の信仰と世俗の境界領域	○	○			
	3 緑に溶け込む建物	○		○		
	4 屋根並みに浮かぶ緑の島	○	○	○		
	5 見晴らし	○		○		
	6 川筋の見通し	○				
	7 高低差の尊重	○				○
	8 曲がった道	○				○
	9 坂道	○				○
地域	10 顔の空間			○	○	
	11 人が交わる場所		○	○	○	○
	12 農の風景		○			○
	13 伝統産業の風景		○			○
	14 聖なる場の威厳		○			○
通り	15 通りのプロポーション			○	○	
	16 人の尺度		○		○	○
	17 しきりとつなぎ		○	○	○	○
	18 にぎわいのにじみ出し				○	○
	19 統一と絞り込み				○	
	20 連歌式			○	○	
	21 期待感		○		○	
敷地	22 用の美		○			○
	23 表出する緑			○		
	24 アクションできる余地					○
	25 生駒石		○			
時間	26 仮設の風景					○
	27 移ろいの風景					○
	28 記憶の風景					○

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



矢田丘陵の上から望む生駒山の山容



往馬大社は生駒山への信仰を背景として創祀され、山頂からちょうど東の方向に位置する

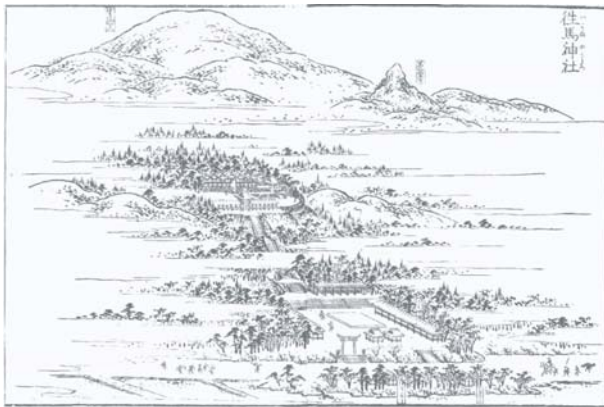


暮らしの背景に生駒山がある

生駒山は、生駒のシンボルでありランドマークとして古来より常に人々に意識される存在でした。生駒谷では、あらゆる場所からその雄大な姿を望むことができ、生活をする中で目印になっています。

古くから往馬大社や宝山寺をはじめとする社寺において神体山として遥拝の対象となり、人々の精神性にも影響を与える強い求心力を持ってきました。

生駒山が見えるとほっとするように、生駒山は私たちの心のふるさとです。



河内名所図会に描かれた生駒山と往馬大社



生駒山に向かって建つ往馬大社

コラム：見る方向によって、形が異なる生駒山

生駒山は生駒谷から見ると、「お山」型に見え、市を包み込むように鎮座しているという印象を受けます。

一方大阪側からは、生駒山地全体が「緑の壁」としてそびえたつように見えます。生駒山地はどの山も高さが同じなので、どれが生駒山か見分けることは簡単ではありません。

「生駒山」は、生駒谷から見てこそ、印象的な姿なのです。

生駒山地の断面図

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○市街地内に生駒山が見える場所をできるだけたくさん確保しましょう。

○生駒山の見え方を意識して道路や街区、公園などの基盤を構成しましょう。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な 工夫

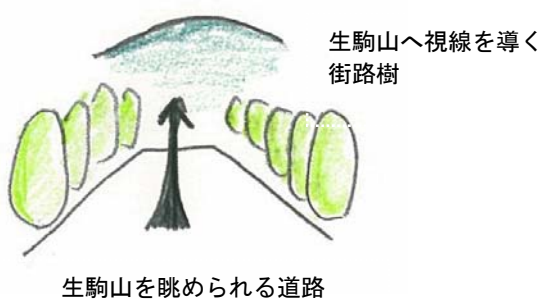
生駒山を生活の中でちょっとだけ意識してみませんか。

- 生駒谷ではいつも視界に映りこむ生駒山は景色を豊かにする背景としての役割もありますが、矢田丘陵の方から生駒山の堂々とした姿を見渡すと、「生駒谷を抱く山」という印象を受けます。家から、通学・通勤途中や散歩コースから、生駒山の姿を感じ、味わってみましょう。

設計・ 計画で 工夫

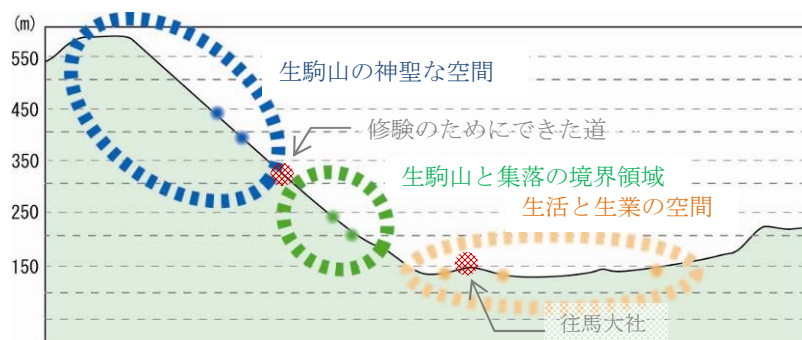
日々の生活の中で生駒山を意識できるように、工夫を凝らしてみましよう。

- 道路や公園の整備を伴う住宅地開発を計画する際には、生駒山が正面に見える通りが生まれるようにしましょう。道路の見通し線を生駒山に合わせるだけでなく、生駒山への見晴らしの良いルートや線形にも配慮しましょう。
- 日々の生活の中で生駒山を意識することができるような工夫を取り入れましょう。



【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

生駒山から谷の平地にかけての空間は、山頂付近の信仰の空間から平地の生活と生業の空間へと、場所の特性（場所性）が徐々に変化します。これらの境界となる領域が、聖なる生駒山の威厳を高めています。



標高が概ね 350m 以上の山頂に近い場所は、古来より修験者の修行の場であり、神聖な空間でした。現在も神々しさを保つ信仰の空間となっています。

標高が 150m 以下の山麓から平地にかけての場所は、人々の日常の暮らしと生業が展開される世俗の空間といえます。河川沿いに農地が拓かれ、形成された集落は現在の市街地のベースとなっています。

標高が概ね 150～350m の場所は、信仰の空間としての生駒山と生活と生業の空間である平地との境界領域です。多くの寺院が分布し、それらをつなぐ修験の道「庄兵エ（しょうべえ）道」はかつての修験者の移動空間でもありました。役行者の伝説が数多く分布するものこの辺りです。



修験の場



山麓の空間



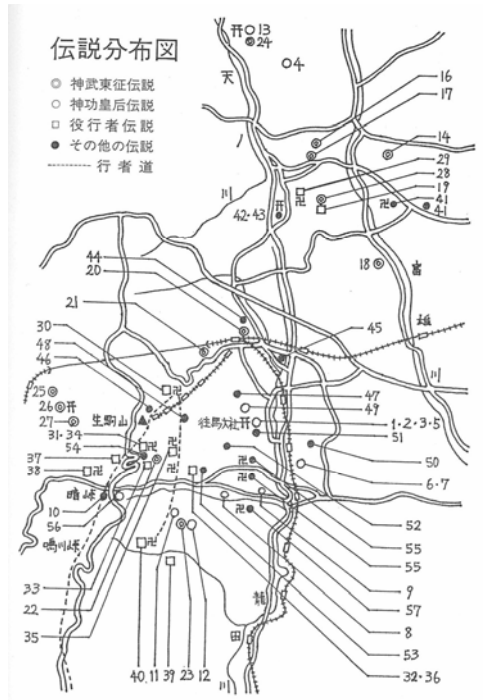
平地の集落（西菜畑町）

コラム：役行者の伝説

生駒山の山頂から中腹にかけて存在している、宝山寺、教弘寺、鶴林寺などの寺院は、役行者を開基としています。

役行者は、吉野の大峯山や金峯山などの山上山を開いたとされる人物です。これらの山上山を開く前に、この往馬山系の千光寺を足がかりにして宝山寺の般若窟や鬼鳥の般若岩屋で修行をして霊力を体得したと伝えられています。生駒山のこうした霊場はいずれも、巨石・巨岩が露出する奇異な景観をなしており、訪れた者に畏怖心を抱かせます。今日でも祈祷師などが籠る修験の場として知られている場所です。

修験者が駆け巡って修業したとされる、行者道「庄平道」の存在が伝えられており、この道の周りでは役行者伝説が多数伝えられています。



役行者伝説の分布

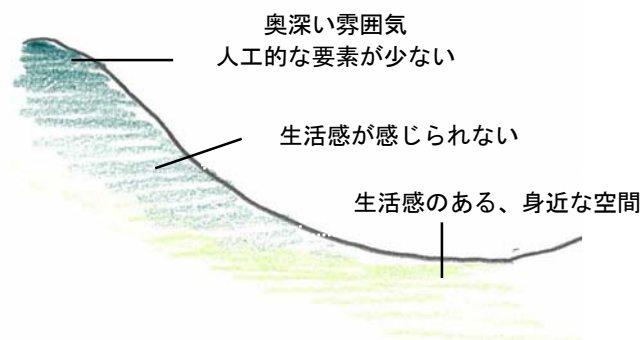
(「生駒谷の祭りと伝承」 桜井満, 伊藤高雄編)

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○生駒山の信仰の空間、世俗の空間、これらの境界の領域の、それぞれの場所性に応じたデザインを考えましょう。

○境界領域では、奥深い雰囲気を守るため、生活感を出さないようにしましょう。

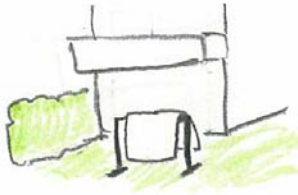


【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

生駒山の境界の領域の厳かな雰囲気を守りましょう。

○もともと、自然の中で修業が行われていた場所で、あまりに人工的な要素は違和感のもとになります。洗濯物や布団は、外からよく見える場所は避けて干す、車は道から見えにくい場所に駐車するなどの気遣いを、日常の生活の中で行いましょう。



洗濯物は低い位置の、植栽に隠れる場所に干す



車は車庫に入れて、車庫の周りは緑化

設計・
計画で
工夫

生駒山の場所性に応じたデザインを心がけましょう。

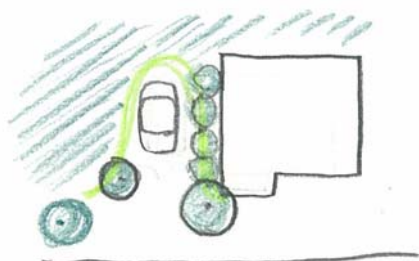
- 信仰の空間、境界領域では、建物の存在はなるべく小さく抑え、周辺の緑になじむように工夫しましょう。
- 奥深い雰囲気を守るため、建物の周りには、厚みを持たせた緑を配置しましょう。緑による見え隠れが効果的です。
- 駐車スペースなどの空間は、道から見えない場所に設け、緑などを用いて目隠ししましょう。
- 夜の照明は、必要以上に広い範囲を強い光で照らさないように注意しましょう。



建物の周りの緑の層は厚くして、建物が木立を通して間接的に目に映るようにする



植栽による見え隠れ



駐車のためのスペースは建物の陰にとり、その周辺は緑化して道から見えにくくする

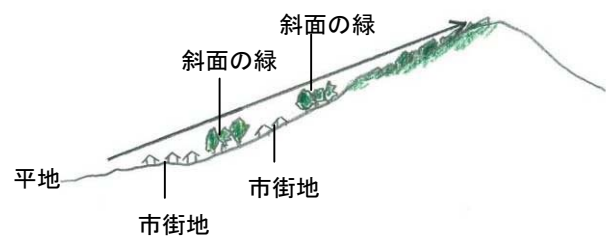
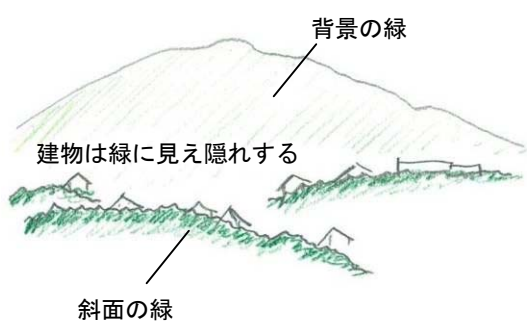


背景の緑に溶け込む、自然の素材

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



緑の中に溶け込む建物



生駒の市街地は、大きく竜田川と富雄川の流域を中心とする二つの谷筋でつくられています。

谷底の平地から見上げると、斜面の樹木・樹林があたかも「緑の帯」のように市街地を覆い隠し、背景の生駒山や矢田丘陵、西の京丘陵の緑とあいまって、あたかも「緑の中に市街地がとけ込んでいる」ように見えます。

この眺めが、「緑につつまれたまち生駒」を強く印象付けています。

コラム：「見え隠れ」の美学

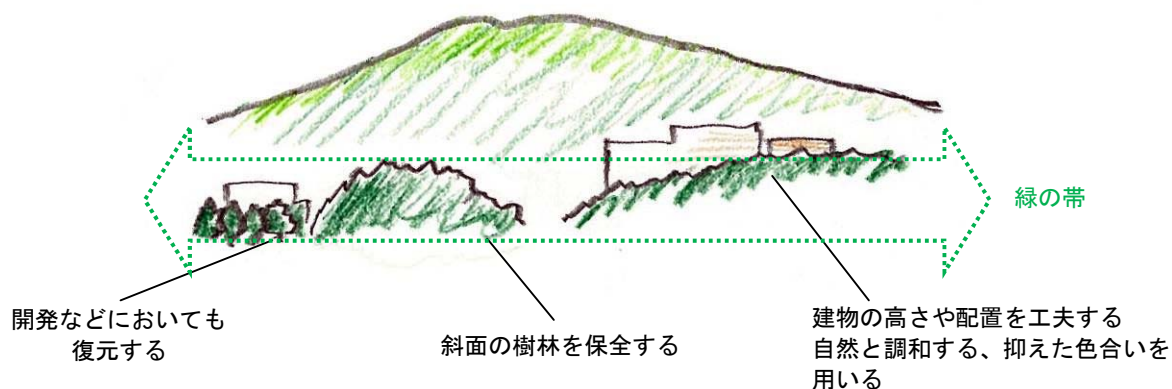
緑のなかに溶け込み垣間見える建物は、視点が動くにつれてはっきりと見えたり緑の後ろに隠れたりします。このような状態を「見え隠れ」と言います。また、日本では古来より物陰からちらりと見えたり、薄暗いなかにほのかに見えたりするところに美を見出す、独特の感覚が受け継がれていると言われています。

緑につつまれた生駒のまちには、私たちの心に訴える「見え隠れ」の美学が息づいていると言えるのではないのでしょうか。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 谷底から見上げた時に見える斜面の樹林は、緑の帯として、たとえ少量であっても大切にし、保全しましょう。
- 緑の帯が損なわれることのないよう、開発などの際にあっても緑化などによりできる限り復元しましょう。
- 竜田川と富雄川の二つの流域がつくる谷底からは、どこでも背景の緑が見えることを意識し、緑にとけ込むように、建物の高さや配置を工夫する、緑となじむ色彩や材料を使う、前面に植栽を厚く配置するなどしましょう。



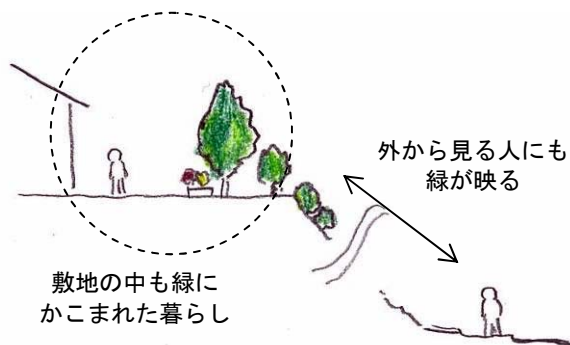
【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

緑につつまれた暮らしは、気持ちも良いですし、まちにもうれしいこと。

○敷地のなかで植栽するときは、斜面の谷の方にできるだけたくさん樹木を植えたり、生け垣にしてみましょう。

○見晴らしのよい場所は逆に周りからもよく見えます。下から見られていることも意識しながら、緑につつまれた暮らしを楽しみましょう。



みんな
で工夫

ひとりで維持・管理は大変。でも、みんなでできることもあります。

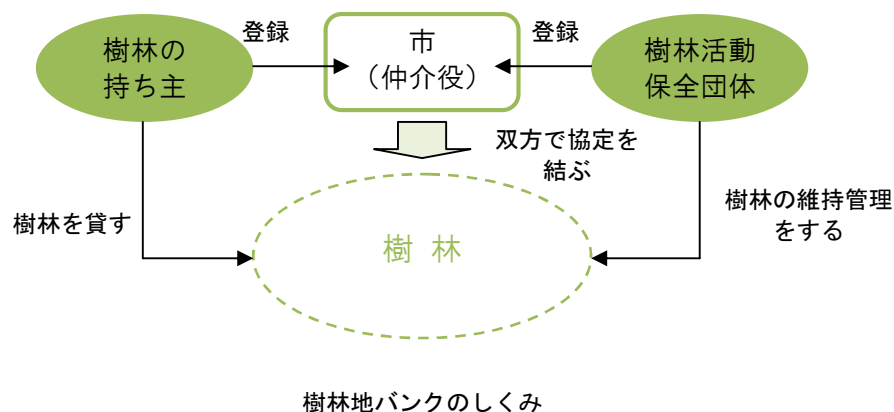
○樹林地をひとりで維持・管理するのは、負担も大きく、やむなく手放すことになってしまいがち。でも、地域の人々や、自然が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、そんなしくみもあります。



<活動紹介：鹿ノ台自治連合会

「ECOKA 委員会」>

近年の住環境への住民意識の高まりとともに、量的な緑環境より緑地全体の質的向上を実現するため、平成 20 年に「ECOKA 委員会」を設立、住宅地の周りに 12 箇所ある保存緑地（12ha）の森の再生に向け、協働・連携のもとで計画的に整備（下草刈、間伐、植樹）しています。



設計・
計画で
工夫

緑の帯を損なう開発は最小限に。いろんな工夫を取り入れて。

○既存の樹林地はできるだけ残しましょう。それも、できるだけ谷側の樹林地を残すことが、緑の帯をつくるポイントです。緑視率（みどりの見える割合）を意識して、谷側から見てできるだけこの率が高くなるような工夫を考えてみましょう。

○屋根の形状や、建物の配置の仕方、デザインの仕方でも、緑とのとり込み方が変わってきます。

【樹林地の保全】



【建物の配置】



【屋根の形状】



【緑化】



【色彩】



緑視率とは??

見える範囲における草木の緑の割合で、まちなみや地区など広い範囲を対象にしたときの指標として用いられています。

例えば、下の写真ですと、左側が約80%、右側が約50%となり、左側の方が寄り緑の印象が高まります。



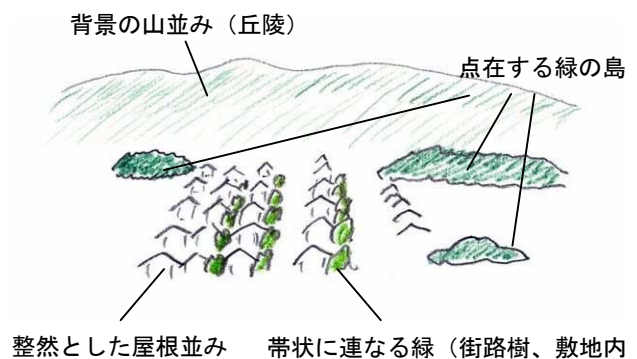
屋根並みに浮かぶ緑の島

【都市】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

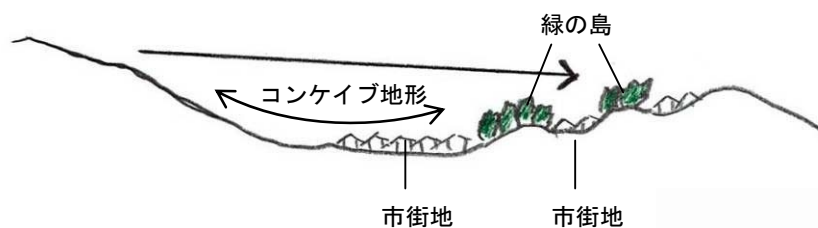


整然とした屋根並みと緑の島



生駒の市街地は、竜田川や富雄川などの河川を中心に、山と丘陵に囲まれた谷筋に形成されています。このため、高台から眺めると、谷筋の凹型（コンケイブ）地形に沿って建物の屋根越しに市街地や集落を見渡す、胸のすくような眺望が広がります。

高台から眺望できる景観は、山や丘陵の緑を背景としながら、斜面地に残る緑や集落のモリが緑の島として市街地の海の中に浮き上がるような形で認識され、非常に印象深いものとなっています。

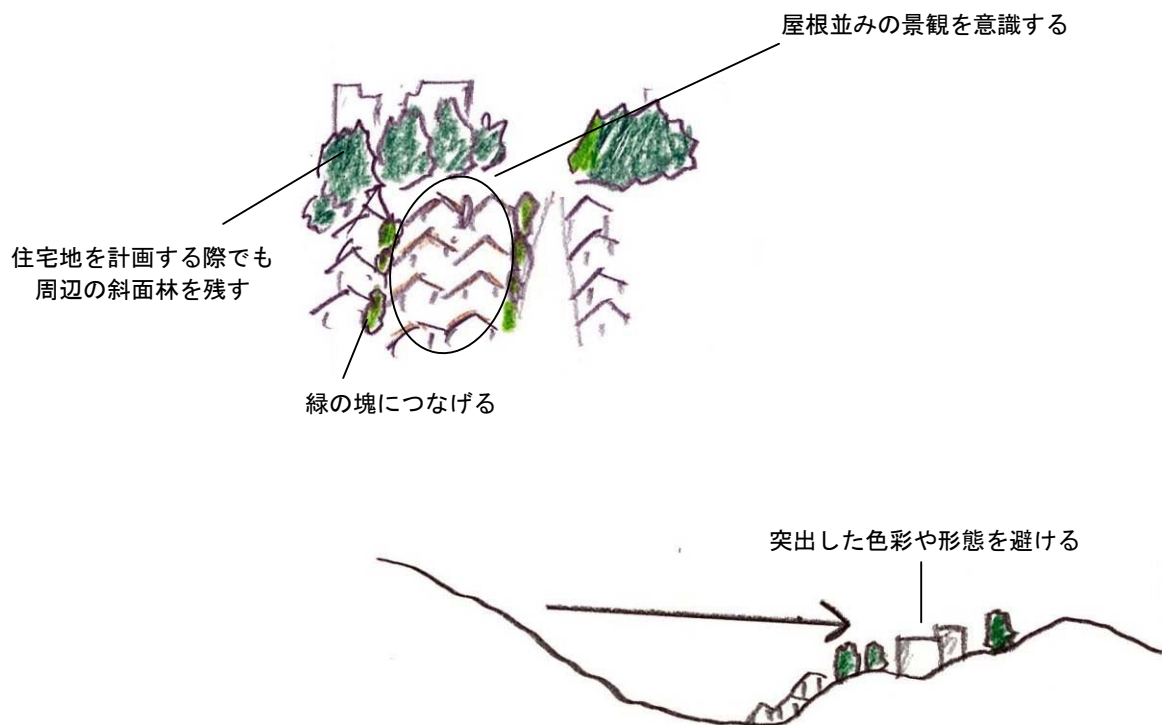


集落に浮かぶ緑の島

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 高台から見下ろしたときに緑の島として認識される斜面地の緑や市街地内の緑の塊は、たとえ少量であっても大切にし、保全しましょう。
- 開発などによって損なわれることのないよう、緑化などによりできる限り復元しましょう。
- 公園などの公共空間から見下ろされる場所では、建物は周囲にある緑の島になじむようにデザインしましょう。



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

緑の島は一人ひとりの心がけでつくられるものです。

- 通りからの視点だけでなく、上から見たときにも豊かな緑となるように、樹冠の大きい緑にしましょう。
- 敷地に余裕があれば、中木や高木も植えてみましょう。



高木を植えれば、上から見たときに見える面積が大きくなります。

みんな
で工夫

みんなで一緒にやれば、より大きな島に成長します。

- 通りに面して緑を連続させて、意識的に緑の塊（帯）をつくりましょう。離れてみた時、上から見た時に、緑が浮かび上がります。



緑のトンネルのような高木と、各敷地の低木、中木が連続しています。上から見た時に、緑の帯に見えます。

設計・
計画で
工夫

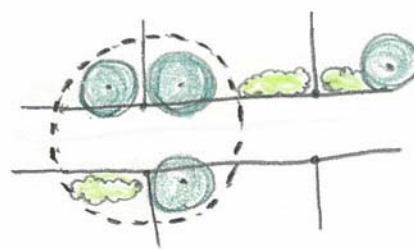
緑の島を意識的に生み出していきましょう。

○緑の島をつくりましょう。

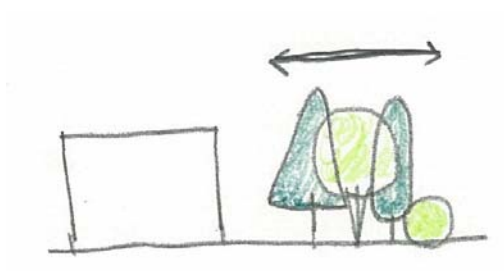
○緑の島を際立たせるために、周りの建物から突出してしまわないようにしましょう。



敷地の周りの樹林地と、庭木の緑が連続するように、樹木を配置



周りの敷地と、緑が連続するように配置



家を取り囲む緑の層はなるべく厚く



屋根は突出した色や高さにせず、周辺と調和させる

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



雄大な地形を感じさせる見晴らし

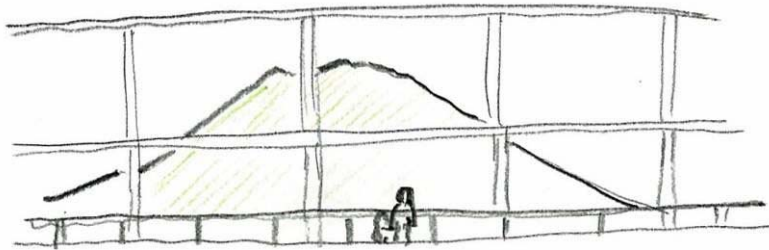
1960年代に生駒谷の谷筋の平地に近い部分から始まった住宅団地の開発は、年代を経るにつれて生駒山麓や矢田丘陵の斜面地などの標高の高いエリアに広がっていきました。その結果、視線の先に山が見える通りや眺望の開ける場所などが生み出されてきました。

高低差のある地形の多い生駒では、地形の構造を感じさせる雄大な見晴らしや市街地を俯瞰する清々しい見晴らしに思いがけず出会うことがあり、生駒ならではの楽しみとすることができます。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

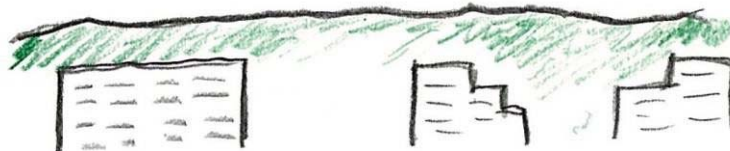
- 多くの人が集まる公共性の高い場所や多くの人が行き来する道などで、見晴らしが得られる場合には、特定の敷地のみが見晴らしを独占することのないようにしましょう。



眺望点を生み出す
建築においても眺望を楽しめる場所を作る

- 見晴らしの良い場所では、印象的な眺望をより引き立てるように工夫しましょう。

建物の高さを抑え、長大な壁面を分節化



色彩も目立たないよう配慮

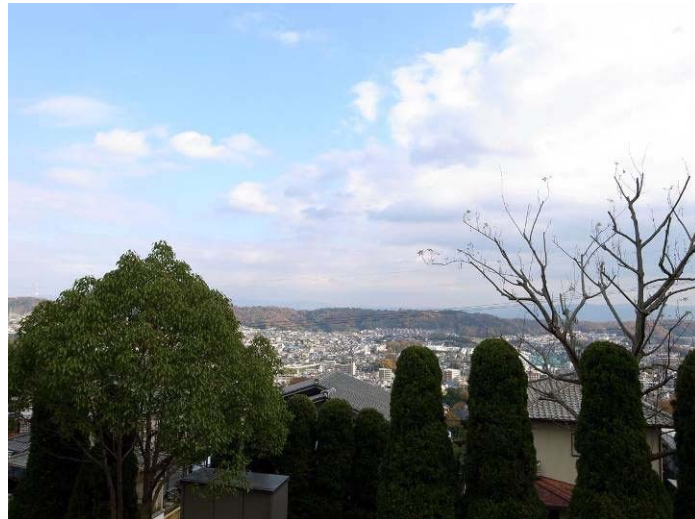
【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

○見晴らしのいい場所は、他の人のために開放してあげましょう。例えば、見晴らしの視線を遮る場所にある木はこまめにお手入れをしましょう。

みんな
で工夫

生駒らしい見晴らしの景観を多くの人に楽しんでもらうため、高い場所にある公園などでは、草木の手入れをしませんか。



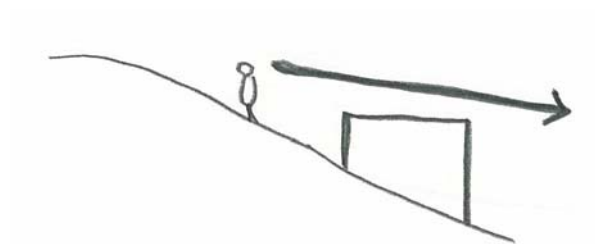
よく手入れされた樹木

設計・
計画で
工夫

緑の帯を損なう開発は最小限に。いろんな工夫を取り入れて。

○見晴らしを独占しないように注意しましょう。

○眺望できる視点場を作りましょう。

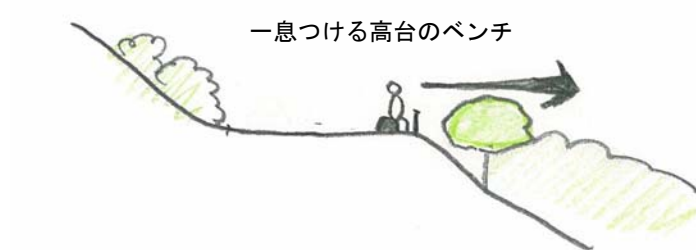


建物高さ抑える



視界を確保

形状を工夫、分節化



一息つける高台のベンチ

眺望できる場所をつくる

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



富雄川沿いの見通し

南北方向に流れる竜田川と富雄川沿いの幹線道路からは、背後の山から斜面の緑、平地部の市街地、農地、河川筋と連続したお椀の底型の断面を構成しています。このため、河川の水面とあわせて視界の両端に緑のエッジが背景として映り、橋の上などから遠くまで広々と見通せる伸びやかな眺めが得られます。

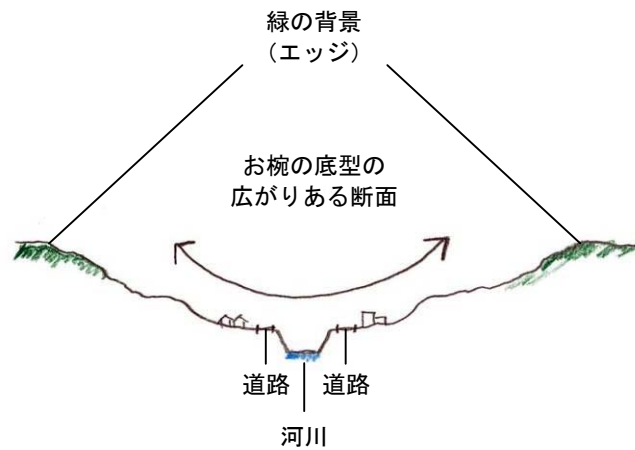


竜田川の谷筋

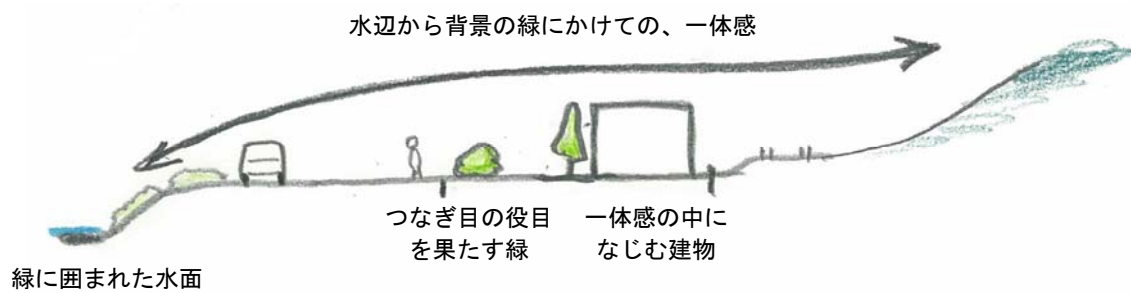
* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○お椀の底型の地形を継承していきましょう。



○水面と周りの空間が一体となるように、河川空間には親水空間を設けましょう。

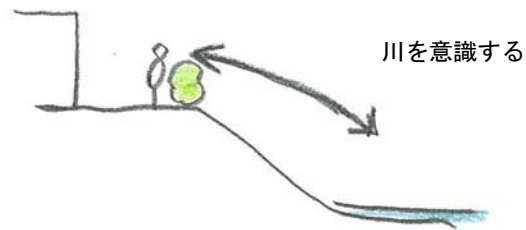


【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

河川の近くの建物は、河川の方にオモテを向けましょう。

- 建物が河川に背中を向けるようにして立ち並ぶと、殺風景な印象の水辺になってしまいます。そうならないよう、河川の方を意識して緑を配置するなどの工夫をしましょう。



みんな
で工夫

魅力的な河川であり続けるために

- 河川の空間とその周りの建物や丘陵の緑が一体となって魅力を発揮するためには、河川が美しく表情豊かである必要があります。
- 近所に住んでいる人たちと一緒に、河川のお手入れをして、魅力的な川を育みませんか。
- 取り組みを応援する、「地域が育む川づくり事業（県）」も活用できます。



地域が育む川づくり事業を活用して住民が河川の手入れをしている場所（富雄川）

設計・
計画で
工夫

緑の帯を損なう開発は最小限に。いろんな工夫を取り入れて。

○河川の近くで建物を計画する際には、お椀の底型の空間構成を損ねないようにしましょう。

○河川空間自体が緑豊かであることも、重要なポイントです。



自然素材（石）の使用



蛇行を取り入れた自然な流路



河川の方

お椀の底型の地形から
突出しない
高さ、色彩の看板

河川との間に
植栽の配置や天然石の設置



堤防が芝で覆われ、河川
と市街地とを視覚的に
つながっている

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



小さな石積み等を用いながら斜面に沿って建てられた住宅

昔は私たちを取り巻く自然の存在は大きく、大地の形を変えるというよりは、その形を活かすようにして暮らしてきました。大地の凹凸や河川の形状に沿うように、田畑や家々をつくってきたのです。生駒の豊かな大地の高低差をそのまま受け入れ、むしろ工夫して利用することによって合理的で個性的な空間をつくってきました。



市役所は地形に沿って立地しており、出入り口も1階、2階にある

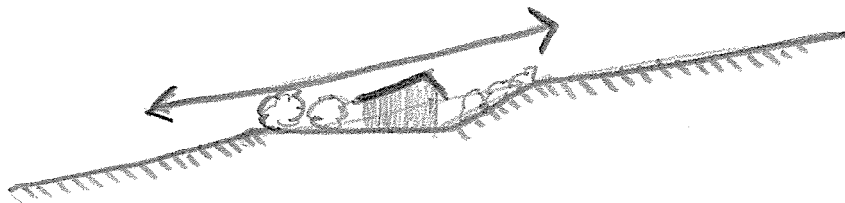


小さな盛り土・切り土により小高い丘の斜面に建設された住宅

* * *

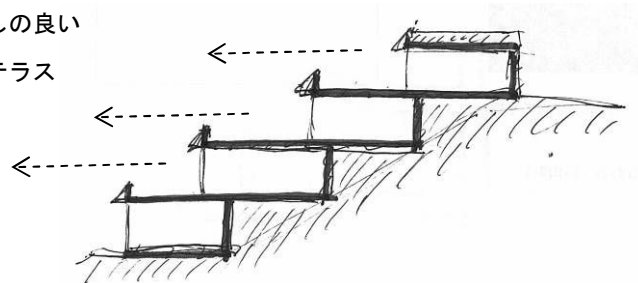
【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○高低差のある地形は大きく改変せず、極力自然の地形を生かすとともに、建物は大地の形状から突出しないようにしましょう。



○高低差を積極的に活かし、変化に富んだ個性的な空間をデザインしましょう。

見晴らしの良い
ルーフテラス

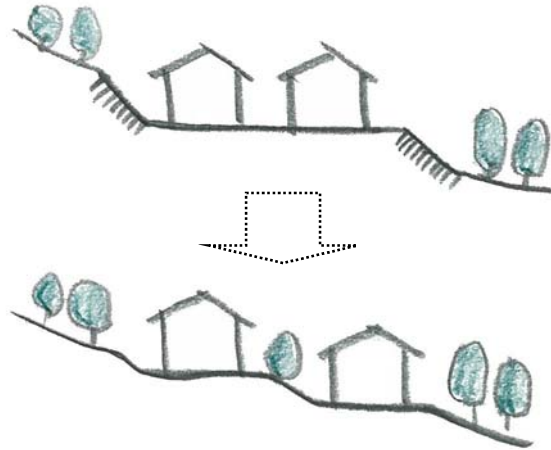


【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

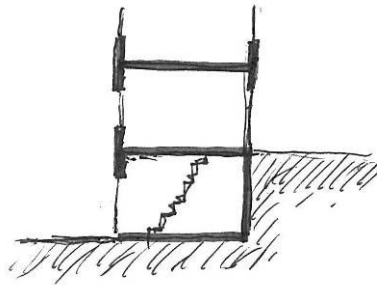
設計・
計画で
工夫

斜面を活かしたデザインをしましょう。

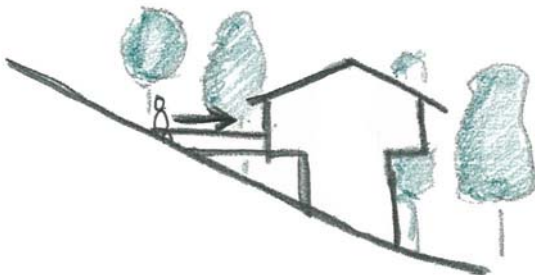
○大きな切り土・盛り土は避け、自然の斜面を活かした設計になるように工夫しましょう。



大きな擁壁を設けるより、小さな擁壁に分けて設ける



高低差を自然に
取り入れた構造



空中のアプローチル
ートを設けて、周辺
の緑を荒らさない

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



田畑の形、ミチの形、川の形はすべて曲線からなり、等高線と一致する（高山町）

大地のうねりの上では、道は自然と等高線に沿った緩やかな曲線を描くものとなります。道は本来、直線的ではなく、道沿いの敷地の中にも自然な曲線が満ちています。

曲がった道を進んでいくと、道沿いの家々に囲まれたような印象を受けることがあります。このような「閉じた」場所は、続いていく道の一部でありながら、居心地のいい落ち着いた空間となります。

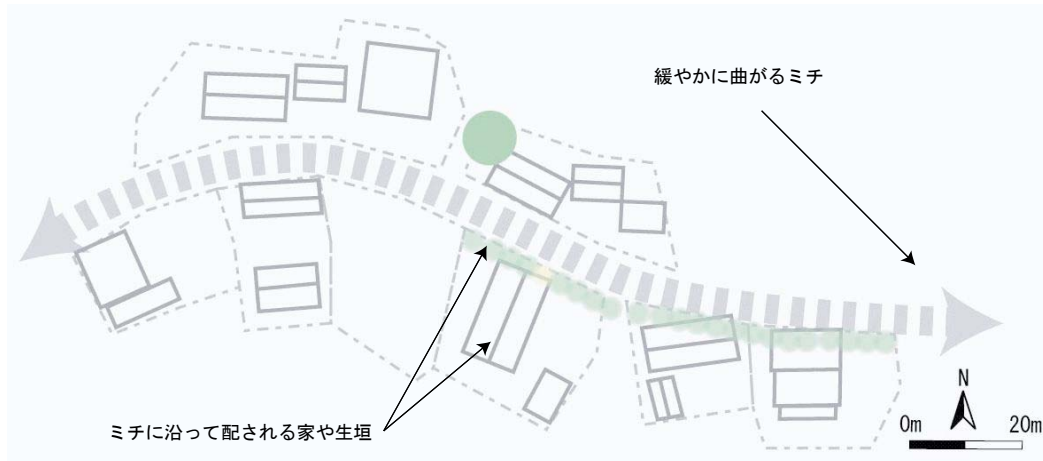


視線の先は緩やかなカーブにより閉じられる（萩の台）

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○道の曲線を活かし、道の形に沿うように、緑や建物を配置しましょう。



○新しく住宅開発等を行い道路をつくるときには、直線的なもののばかりではなく、曲線的な道も取り入れるようにしましょう。



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

みんな
で工夫

曲がった道が生み出す、歩く人を「取り囲む」ような居心地よい空間。

○曲がった道は、歩く人にとって、周りの緑や家に取り囲まれていると印象づけることがあります。

○この閉じた空間でもし、道沿いに緑があふれていれば、みずみずしく居心地良い空間となるでしょう。周りの家と一緒に、花や緑を増やしませんか。



住宅地の中の曲がった道

設計・
計画で
工夫

- まとまった敷地で住宅開発を行う場合は、曲がった道を取り入れることで、居心地の良い空間をつくることができます。
- 道に沿ったまちなみをつくりだせるように、曲がった道に沿わせるように緑を配置しましょう。
- 南面配置（方角）にこだわらず、敷地の形状に合わせて柔軟な配置を計画しましょう。



直線的な区画割は避け、曲がった道も取り入れている



道に沿って門構えや家が配置されている



敷地の形状に応じた柔軟な建物の配置

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



宝山寺参道の坂道（上り）



（下り）



住宅地の坂道（上り）



（下り）



奈良街道の坂道（上り）



（下り）

生駒では名前がつけられた坂が少ないことからわかるように、坂は身近なところにたくさん存在しています。

平地とは異なり、坂は通過するときには視界が大きく変化することが特徴です。同じ坂でも、上から見下ろすときと下から見上げるときとでは印象がかなり異なり、坂道に沿ったまち並みは見る方向によって表情が変わります。

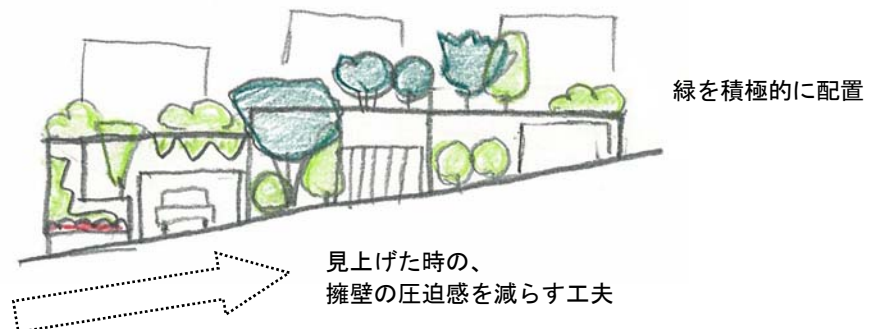
* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○坂の上から見下ろした時の眺望を大切にし、眺望を阻害しないような建物にしましょう。



○坂の下から見上げるときには、道路の舗装や沿道の擁壁の存在感が大きくなるため、威圧感を与えないような工夫をしましょう。また、目に映る緑の面積が小さくなってしまふことが多いので、緑が見えるように重点的に配置しましょう。



○坂道の上に建つ建物では、坂道から見えるところに特徴を持たせると、坂道を登る時の目標となります。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

擁壁の緑化が坂道の印象を作用するのです。

○坂道の下から上ってくると、擁壁や法面が大きく見え、逆に庭木の緑は小さく見えてしまいます。擁壁の前に花を飾る、ツタ系の植物を垂らすなど、緑化の工夫をしてみましょう。通りの印象がみずみずしくなります。



ツタによる擁壁の緑化



プランターによる擁壁前の緑化

設計・
計画で
工夫

坂の上と下からの見え方の違いを意識してデザインしましょう。

○坂の下から見上げる視線に対して、圧迫感や無機質な印象を与えたりしないようにしましょう。

○上から見下ろす視線を意識して、緑の連続性が生まれるようにしましょう。

○坂道の上に建つ建物では、坂道に面する部分に特徴を持たせると、坂道を登るときの目標となります。



石垣のところどころに植栽し、圧迫感を軽減



擁壁の前に少し、緑化のための空間を確保し
低木を配置



緑が連なりを持つように意識



坂道を登るときの目標となる
赤い屋根

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒の玄関口である生駒駅前 ロータリーのモニュメントやシンボルツリーが印象的



東生駒駅前ではモニュメントときれいに整えられた緑の空間が彩りを添えています



白庭台駅前では駅舎のデザインと周辺の建築物のデザインをあわせています

駅前には、市外からの来訪者を迎え入れ、まちの第一印象を決める“顔”となる空間です。
生駒でも、モニュメントやシンボルツリーを配したり、周辺の建物と駅舎とのデザインを合わせるなど、印象を高めるための工夫がいろんなところに採り入れられています。

コラム：「顔」をつくるために・・・

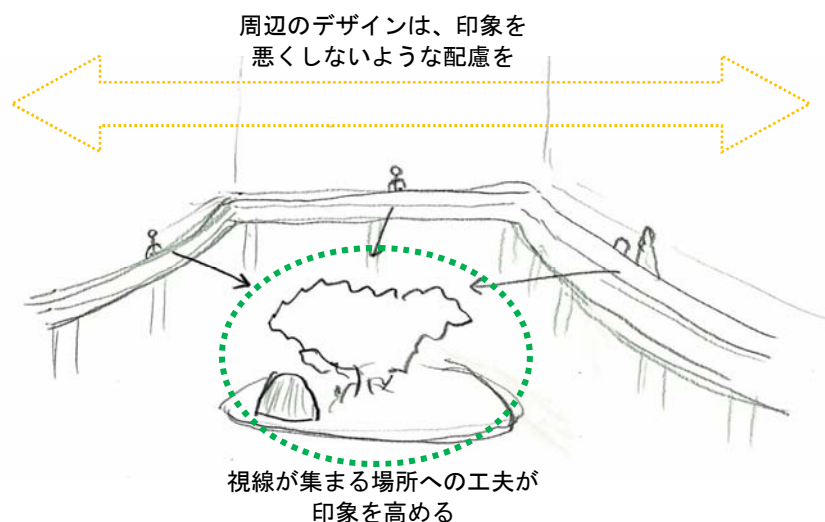
「顔」となる空間は、何となくできているように見えてしまうかも知れませんが、実はそういう「顔」となるようにいろんな話し合いが積み重ねられています。

生駒駅北側では、再開発事業の時に、生駒山と調和したデザインや、玄関口としてふさわしいにぎわいとうるおいが感じられるデザインは一体どういうものか、を話し合ってきました。現在進行中の事業でもそうしたポイントは意識され、計画へと反映する努力がなされています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 「顔」となる駅前の空間では、駅に降り立った人が好印象を持てるように、視線が集まる場所に目印となる樹木やモニュメントを配置するなどの工夫を採り入れましょう。
- 視線が集まる場所の周辺は、建物の「面」に過度な装飾を避けたり、建物同士のデザインがまちまちにならないようにしたりなど、「顔」となる空間として印象を悪くしないような配慮を行いましょう。



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

きれいな顔にするために、お手入れが欠かせません。

- 顔となる空間がきれいに保たれていると、私たちも訪れる人もとても気持ちが良くなります。
- みんなに見てもらえる場所だから、まめにお手入れしていきたいですね。



事業所みなさんが掃除や花のお世話をしています



きれいな場所では、思わず写真を撮りたくなりますよね

みんな で工夫

駅前に面する建物や広告のデザインのルール、考えてみませんか？

- 顔となる整った空間となるように、周りに面する建物や、そこに掲げる広告についてルールを決めておくことができます。
- すでに、市内ではいくつかのルールが定められています。気持ちの良い顔の空間とするために取り組んでみませんか。



＜学研奈良登美ヶ丘駅周辺

景観保全型広告整備地区＞

新しいまちにふさわしい広告景観づくりを行うために、平成 17 年 4 月に導入されました。

広告を掲げる場合は、事前に奈良市と相談して、表示の場所、形、面積や色などについて調整をしています。

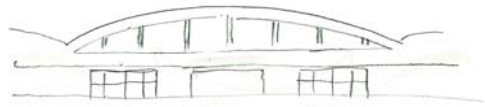
設計・ 計画で 工夫

全体のバランスを取りながら、印象を高める工夫を考えてみましょう。

- 駅前には多くの人の視線が集まる場所です。そうした場所では好印象を与えるような工夫が求められます。
- 目立つことばかりを意識しすぎると、かえって印象が悪くなってしまいます。全体のバランスも考えながら、公共施設や周りの建物、広告のデザインを考えてみましょう。



みんなの視線が集まる場所（焦点）には、ランドマーク（目印）となるシンボルツリーを配置
夜間は光で演出などすると、効果も高まります



建物の「面」を強調したデザインの例
（シンメトリー：対称性）

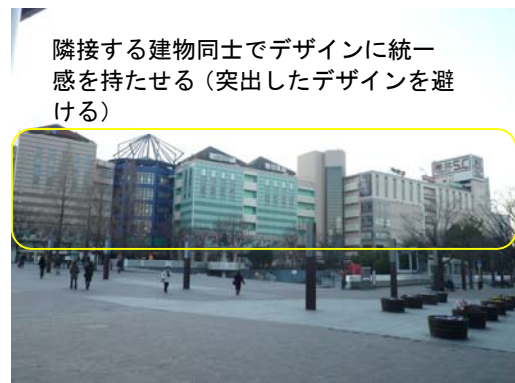
顔となる空間を邪魔しないデザインを考えてみましょう。

- 周りに面する建物や、掲げる広告物によっても、顔となる空間の印象は左右されます。
- 建物はまわりと協調した配置・デザインなどの工夫が、広告に必要な情報は掲げつつ、印象を妨げない工夫などが求められます。

【建物のデザイン】



面のデザイン（色合いなど）をあわせる



隣接する建物同士でデザインに統一感を持たせる（突出したデザインを避ける）

【公共施設のデザイン】



山なみへの眺めを妨げない配置・高さに



地区全体の色合いに統一感を持たせる（建物、屋根、舗装など）

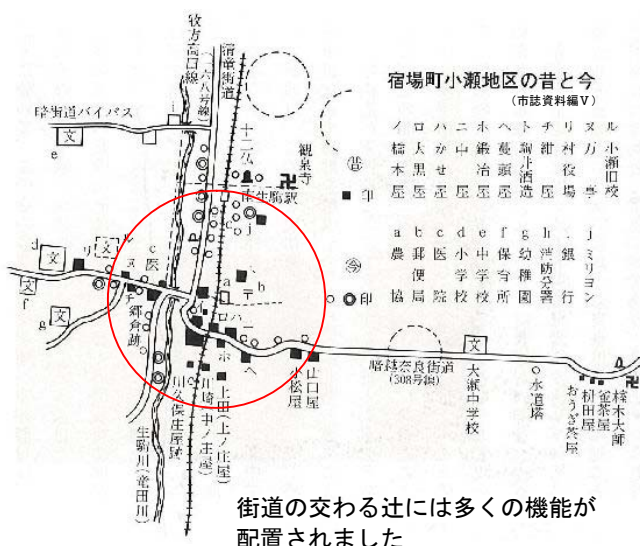
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



集会所や火の見櫓のある中心



コミュニケーションの場でもある水汲み場



街道の交わる辻には多くの機能が配置されました



交通の結節点、住宅地の入り口

集落では、暮らしの中から人々がよく通るところ、使うところ、溜まりやすいところなど、共同生活の中心の役目を果たす場所（辻）が自然と生まれてきました。そこには火の見櫓が置かれ、集会所や公民館があり、人々の生活を支え、また人と人が出会う場となり、ムラのつながり、結束を意識させる重要な役目を担ってきました。

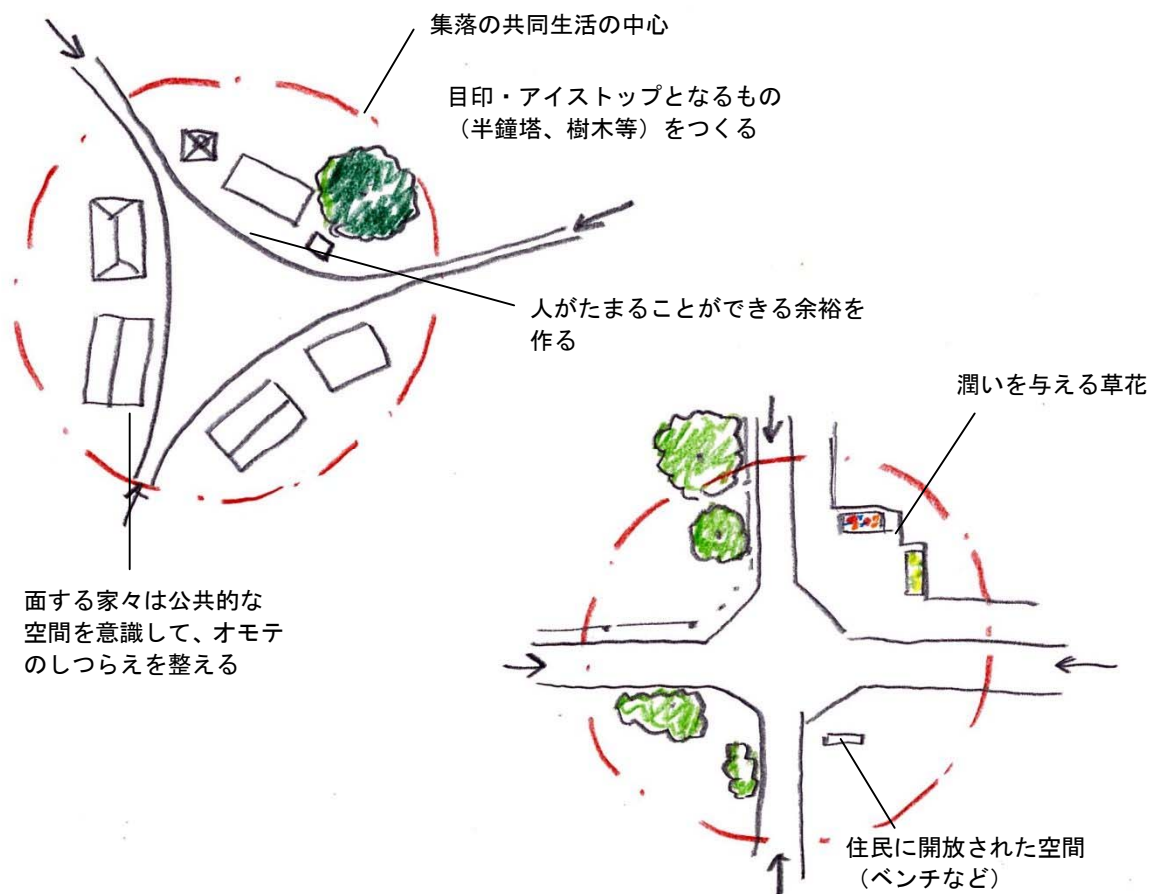
計画的に開発された住宅地でも、コミュニティのまとまりを生み出す空間が意識的にデザインされています。公園や集会所、井戸端の交流が生まれるまちかどなど、コミュニティの中心となる人が交わる空間は、形は変えながらも大切な場所として受け継がれています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○集落や住宅地の中に、生活を支える機能や交流できる機能を配置した、共同生活の中心（辻）をつくるように、敷地や建物の配置や、道路・歩道の使い方、共同施設の使い方などを考えましょう。

○辻で、いろんな人が交わり、語らい、楽しむことができるようなしかけや装置を採り入れましょう。



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

辻の空間で、出会いや語らいを楽しみましょう。

- まちかどでご近所さんとの井戸端会議に花が咲く。そんな雰囲気のごく自然にできている場所が、辻の空間です。
- お地蔵さんの前、ちょっとした道端、身近な公園、行きつけのカフェテラスなど・・・あなたのまちの中で、近所の人と出会いや語らいを楽しめる場所を見つけませんか。



ほこらの前で世間話



こんなお店があるといいかも

辻に面するオモテのしつらえ、気をつけてみませんか。

- 辻となる空間は、いろんな人が集まる場所なので、そこに面するオモテの部分には、ごみを捨てない、洗濯物やふとんは出さないなど、ちょっとした心配りがあるといいですね。

みんな で工夫

辻をみんなの空間として、いろんな使い方をしていきたいと思います。

- 辻の空間はみんなの場所。集落や自治会でのお掃除などで美しく保ったり、地域の防災訓練の集合場所にしたり、地域のお祭り・イベントの場所にしたり・・・いろんな使い方ができますね。

- 生駒市では、コミュニティパーク事業といって、地域の皆さんが身近な公園のつかい方や育て方などについて話し合い、生駒市と協働でより良い公園にリニューアル（再整備）できる事業があります。こんな事業も使いながら、みんなが集まる場所を作っていきませんか。



壺分町児童公園の
コミュニティパーク事業

設計・
計画で
工夫

パブリックな空間で人が交わる空間のしかけを考えてみましょう。

○特に大規模な建物や敷地で計画をする際には、人と人が交わる空間をどう作っていくのか、についても考えてみましょう。

○住民とのかかわり方もデザインされると、長く使ってもらえるかもしれませんね。



出会いや会話を生み出す広い歩道空間



ライトアップで演出



住民がかかわる余地を盛り込む



【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



ヤマ・ムラ・ノラで構成される農の風景

昔から人々の暮らしを支えてきたなりわいの場である農地（ノラ）は平地に広がり、また斜面に沿うようにつくられ、里山や奥山（ヤマ）、居住空間（ムラ）の三層が調和して、農の風景をつくっています。

農地（ノラ）は水が流れやすいように低地に、居住空間（ムラ）は洪水などの災害を避けるために低地の周りの少し高いところに位置しました。また、里山や奥山（ヤマ）は、かつては生活に欠かせない薪や炭が取れる場所でもありました。

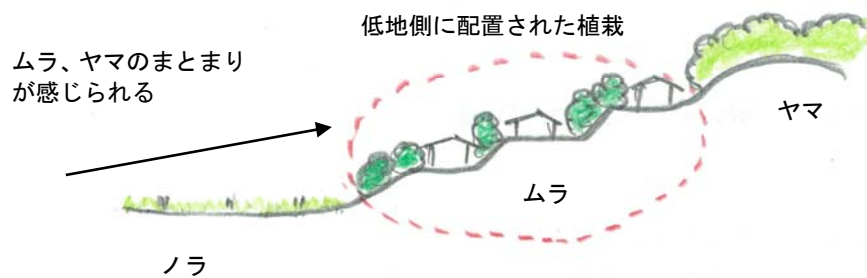
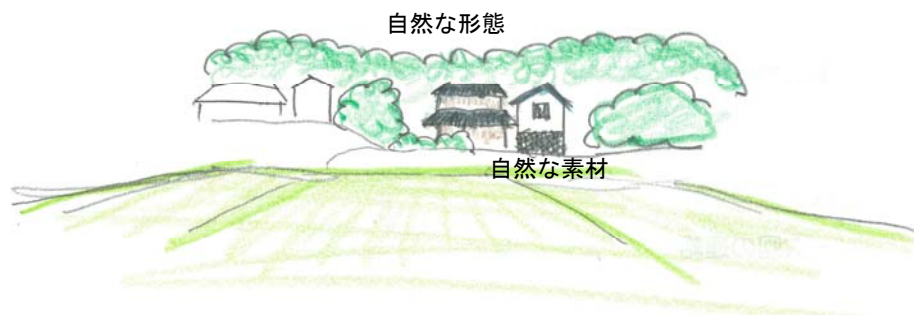
こうした自然に寄り添った生活の知恵が農の営みとともに受け継がれ、今の農の風景を形づくっています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○ヤマ、ムラ、ノラという三層の空間の構成を大切にし、宅地の開発などを行う際には、これらの調和・バランスを損ねないようにまとまりに配慮しましょう。

○背景の山の緑や田園に溶け込むように建物の形態や配置を工夫するほか、緑や土となじむ色彩や自然素材を採用する、あるいは低地側に植栽を配置するなどの配慮を行いましょう。



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

「地産地消」を意識してみませんか？

- 農の風景を守るには、そこで営まれる農業が続けていけるかどうか的大事です。
- 最近では、安心・安全、新鮮で美味しい作物が身近に手に入るということで、地産地消の取り組みも進められています。
- 身近な直売所に足を運んでみたり、市民農園に参加してみたり・・・一人ひとりの農業との関わりが増えれば、農の風景も維持できるのではないのでしょうか。



みんなで工夫

ひとりで維持・管理は大変。

でも、みんなでできることもあります。

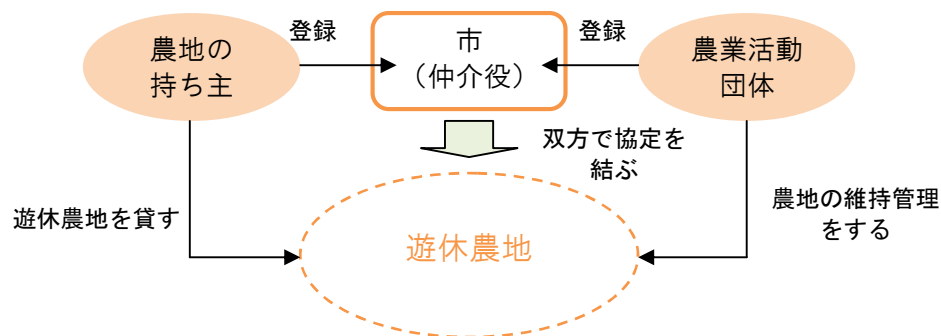
- 農地をひとりで維持・管理するのは、負担も大きく、やむなく手放すことになってしまいがち。でも、地域の人々や、農業が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、そんなしくみもあります。

＜遊休農地活用事業＞

農地の管理などを希望する農地所有者と耕作希望者を市が仲介するもので、遊休農地を維持管理し、景観を含めた環境の保全を進めながら耕作できる方に農地の貸付を行います。



遊休農地活用事例



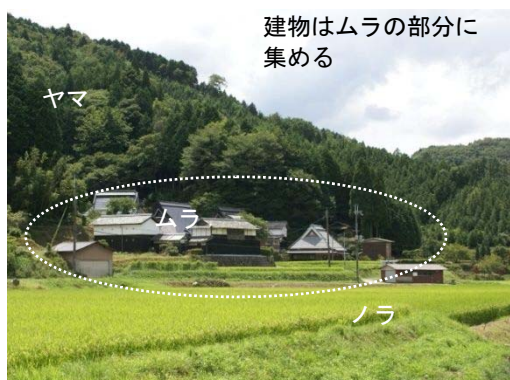
遊休農地活用事業のしくみ

設計・
計画で
工夫

農の風景を形づくっている条件を、計画に活かしてみませんか。

- 昔から、集落は土地の高低差や水の流れなどの土地の条件を読み込んで、それに順応した形で家屋を建ててきました。
- 全く同じ状態に復元することは難しくても、その土地にある条件を理解し、計画の中で活かしていくことが大切です。

【建物の配置】



【緑化】



【建物の意匠】



【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



一年で最も冷え込む2月初旬に見られる竹の寒干しの風景

～古くからの茶釜師の家は農家に混じって点在し、昔からの屋敷を守って、もっぱら茶釜づくりに精魂を打ち込んできた。職人の街、夜業の街といわれた茶釜の里はここである。（『生駒市誌Ⅴ』）～

地域の風土の中で培われてきた茶釜や竹器製造、酒造りなどは生駒の伝統産業です。

茶釜や竹器の材料となる竹の寒干しが茶釜の里ならではの、また古くからの造り酒屋が生駒らしい伝統産業の風景をつくっています。

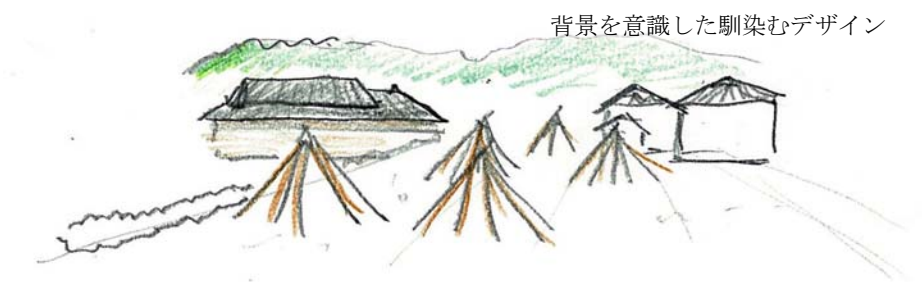


酒造の店舗

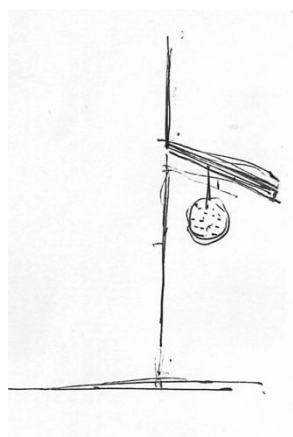
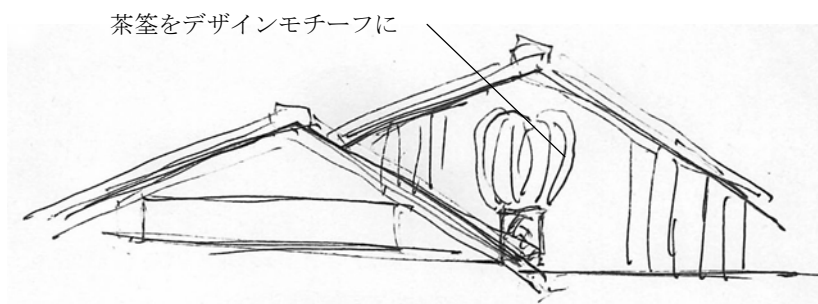
* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○培われてきた伝統産業の風景を損なわないよう配慮しましょう。竹の寒干しが行われる地域では、建物は背景の風景の要素として、周辺の自然や農地に馴染む建物の形態や色彩に配慮しましょう。



○伝統産業のある地域では、特産品などの形をさりげなくデザインモチーフとするなど、伝統の雰囲気演出することも考えましょう。



杉玉

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

伝統産業に、触れてみませんか？

- まずは、生駒にそうした伝統産業があるということを知って、触れてみることから始めてみましょう。
- 作品に触れられたり、製作の様子を見学・体験できたりする施設もあります。気に入ったものがあれば、使ってみてはいかがでしょうか？



設計・
計画で
工夫

伝統産業のモチーフを採り入れたデザインを。

- 竹の寒干しや茶釜などの伝統産業をモチーフにしたデザインを採り入れ、地域の伝統産業を目に見える形で伝えていくことも有効です。



茶釜をデザインモチーフに



竹をデザインモチーフに

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



モリ（萩の台）



地蔵（萩の台）

生駒谷では市街地が拡がり、もとの集落のまともりも不明瞭になってきていますが、かつて集落を取り囲むように外縁部に位置していた「七つモリ」は、今も集落の場所を知る手がかりになっています。

ムラの人々はこれらの「モリ」を畏れ敬う風習と結びついた聖なる場所として「モリさん」と呼び、大切に守ってきました。集落での暮らし方も時代とともに変わってきましたが、「七つモリ」にまつわる言い伝えは今でも受け継がれ、人々の暮らし方や空間の使い方の中に息づいています。

コラム：「モリさん」から学ぶこと

生駒市で民俗学を研究してきた今木義法先生から、「モリさん」から学ぶことを教えて頂きましたので、ご紹介します。

～～先人たちが、モリのカミを畏敬し、きびしい禁忌を守ってきた信仰があって、その結果として、今の生駒のみどり豊かな景観が守られてきたのです。こうしたモリ（自然）への畏敬の念を忘れてはならないと思います。

往馬神社の社そう林は見事な原生林ですが、これは人間が手を加えて守ってきたのではなく、「手を加えなかったから守られてきた」のです。

急激に都市化されてしまい、モリのいくつかが消滅してしまいました。「モリを失ったことにより、自然を大切にする豊かな心をも失ってしまった」のではないかと心配しています。

景観を考える上でも、まちの歴史と文化を大切にする心を養い、自然への畏敬の念を根底に据えることが大切だと思います。～～

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○時代を超えて受け継がれ、集落に今も息づくモリや地藏などのいわれのある空間は大切に守りましょう。場所の由来や伝説には素直に耳を傾け、伝承に反した土地の利用をしてはいけません。



七つモリ、神社の鎮守の杜を大切に守る



ムラはずれの大木や地藏さんの物語を継承する

○寺院やモリなどの周囲では生活感が表出しすぎないようにしましょう。厳かな雰囲気をかもしよう建物の配置やデザインを工夫するなど、植栽による見え隠れを意識しましょう。



植栽等により、生活感が出過ぎないようにする

見え隠れにより、聖なる場所の威厳を保つ

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

地域のいわれのある場所は、
大切に維持しましょう。

- いわれのある場所は、普段は余りに留めることがないかもしれませんが、実は地域の人々が定期的に掃除をしているなど、何気ない習慣の中で維持されています。
- ごみを捨てたりしないのはもちろんのこと、たまには手を合わせて、花を飾ってみてもいいかもしれませんね。
- 大事なものであることを示す看板などを地域で飾ってみるのもいいですね。



みんな で工夫

地域にずっと住んでいる方のお話に、耳を傾けてみましょう。

- 地域のいわれを一番良く知っているのは、ずっとその場所で何代も暮らしている方々です。
- 学校などでも昔話を学ぶかも知れませんが、あわせて、自分の住んでいるまちの様子にも関心を向けてみましょう。



地域の大工さんにインタビュー

コラム：生駒の伝説

生駒市で語り継がれてきた伝説などを知ることができる本をいくつか紹介します。
これをもとに生駒を歩くと、また違った発見があるかも！？

- ・『生駒市史』
- ・『生駒の祭礼』
- ・『生駒の年中行事』
- ・『モリに宿るカミ 一生駒谷の七森信仰』

設計・
計画で
工夫

聖なる場の存在を意識し、そことの関係に思いを巡らせましょう。

○聖なる場を汚すと、たたりが生じるといった伝説が残る、七つモリの伝説。それは、自然に怖れを持ち、自然と共生して暮らしてきた人間のあり方を示すメッセージだと考えられます。

○そうした場とどのような関係を持つべきなのか、について、思いを巡らせてみましょう。

【聖なる場の保存】



マンションの敷地内に樹木を残した例



駅前の宅地開発の中で残された例



道標を保存した例

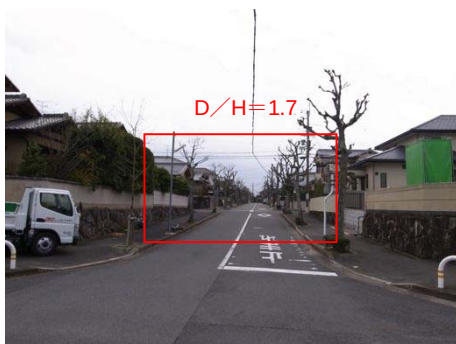
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



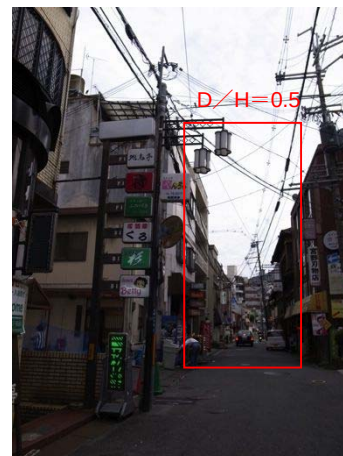
生駒台



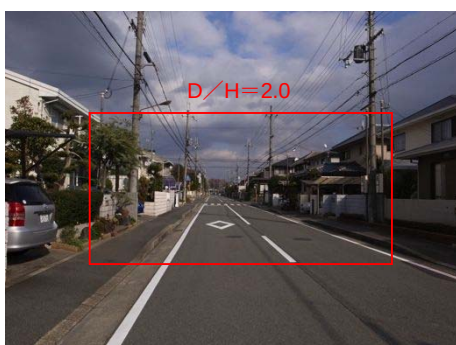
本町



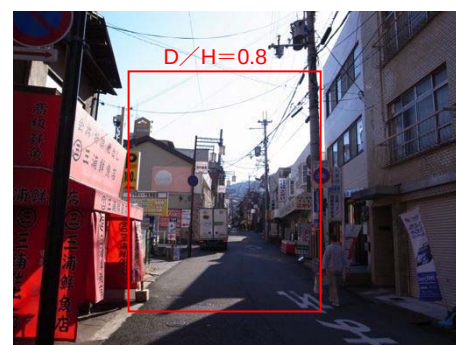
真弓



本町



ひかりが丘



本町

通りの水平方向の広がり（D）と沿道の建物の高さ（H）の割合（プロポーション）が、通り空間の性格を決めています。

D/Hが大きくなるほど開放感が強くなりますが、大きすぎると通りとしてのまとまり

を感じにくくなります。逆に小さくなるほど囲まれ感が強くなりますが、小さすぎると圧迫感を感じるようになります。

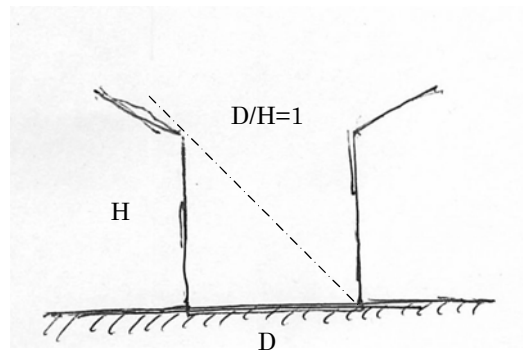
* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

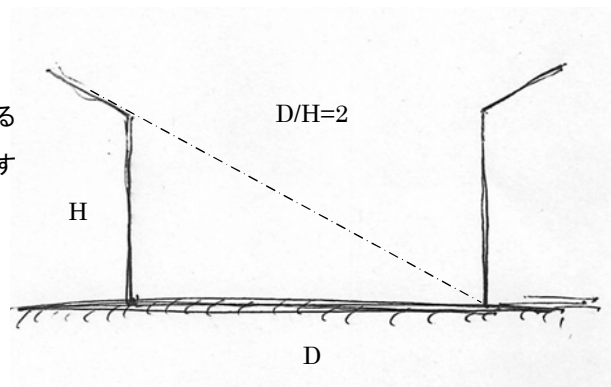
○通りの性格に応じた心地よさを生み出すよう、通りと建物のプロポーションを調整しましょう。

○開放感のある大通りとするためには D/H を大きく（2.0～3.0 程度）、親密感のある通りとするためには D/H を小さく（1.0～1.5 程度）しましょう。

落ち着いた感じや親密感のある通りとする場合には D/H を小さくする



開放感のある通りとする場合には D/H を大きくする



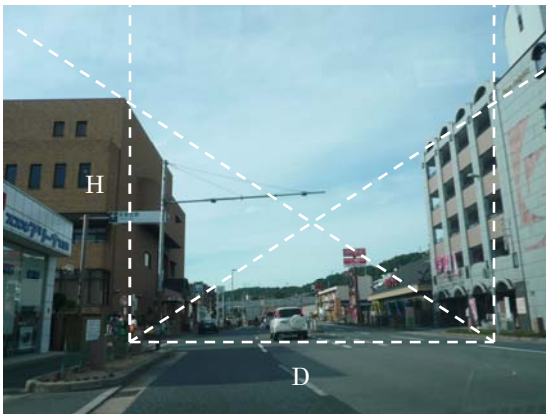
【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

設計・ 計画で 工夫

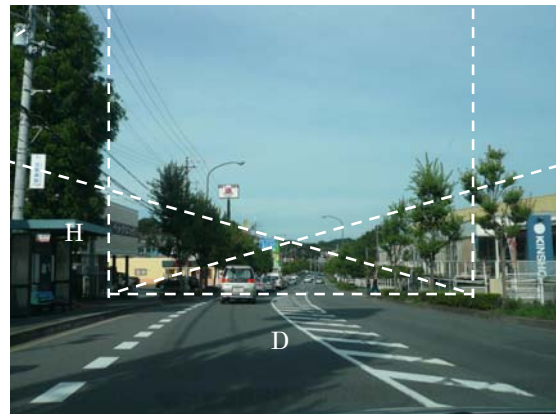
通りの性格に応じた心地よさを演出できる計画を心がけましょう。

○宅地の開発の際には、開放感のある大通りとするためには D/H を大きく（2.0～3.0程度）、親密感のある通りとするためには D/H を小さく（1.0～1.5程度）し、通りの心地よさが演出できる工夫を考えましょう。

○逆に、通りのプロポーションにあわせて、建物の形を考えましょう。通りのプロポーションが損なわれないように注意を払いましょう。セッバックの際も、通りのプロポーションを意識しましょう。



高密度な幹線道路沿道
($D/H=1.5$ 程度)



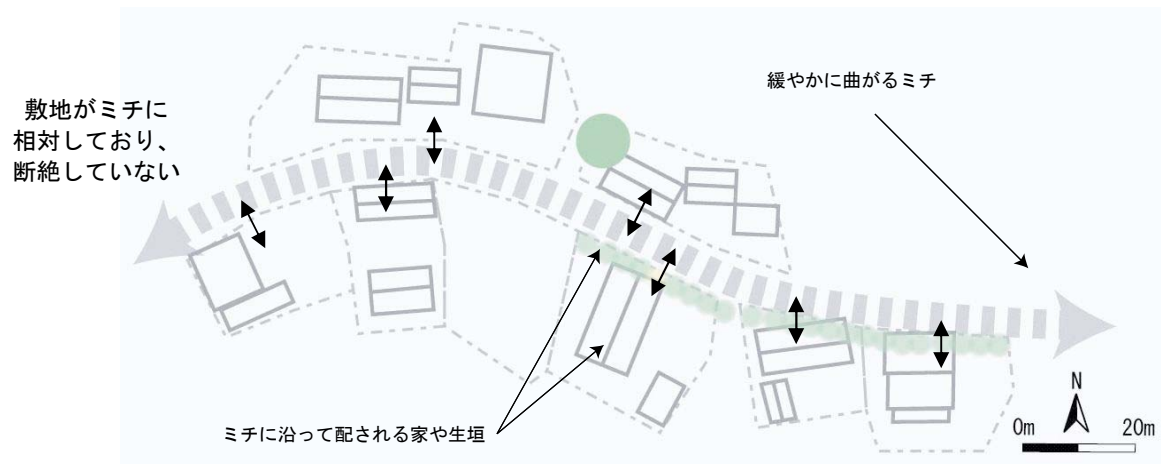
低密度な幹線道路沿道
($D/H=3.5$ 程度)

コラム：建物の高さ

生駒市では、用途地域の種類によって建物の高さの上限は決められており、さらに、道路の幅などの敷地の条件によって高さが決まります。その他、個別の地区で制限が決められているところもあります。しかし、現在の日本の法制度では、まちなみの連続性を考慮した高さの制限はなく、事業者の配慮によるところが大きく、難しい問題となっています。

なお、海外では、「新しく建設する建物の軒高は、左右に隣接する建物と調和するように一定の範囲内に収める」というルールもあったりします。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



地形に寄り添う集落



ミチに沿って家が配置



生駒石の石積みと生け垣



ほどよい高さの石積み

高低差のある地形が多い生駒では、自然に逆らわない、無理のない方法で土地を利用してきました。高低差を埋める坂道や石積みの擁壁などが日常の空間の中に自然な形で埋め込まれています。

人の力の及ぶ範囲で自然と向き合い、自然の摂理に逆らわない暮らしの中から自ずと生まれてきた空間利用のルールは水利や防災の面でも理にかなったものです。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 人の接する境界部分ではできるだけ自然の素材を使いなじみ感を演出するなど、人の力の及ぶ範囲で自然と向き合い、自然の摂理に逆らわない暮らしを意識した空間計画を心がけましょう。
- 逆に、人のスケールを超える擁壁を作るなど、人のスケールにそぐわない空間計画は、その場所で培われてきた生駒らしさを損なう恐れがあるので、避けましょう。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

設計・
計画で
工夫

住宅地はできるだけ人の尺度にあわせた計画に。

○手の届く範囲や目の高さにある要素は、自然の材料の風合いや緑により親密感のあるデザインを工夫しましょう。



生駒石を用いたしつらえ

○擁壁の高さはできるだけ人の背丈を超えないようにし、高低差が大きいときには小段を設けて分節化したり、直立させず転びを設けたりしましょう。



○通りに擁壁が面する場合には石積みとしたり、コンクリートの場合には表面に表情につけるか緑化するなど手作りの風合いに配慮しましょう。

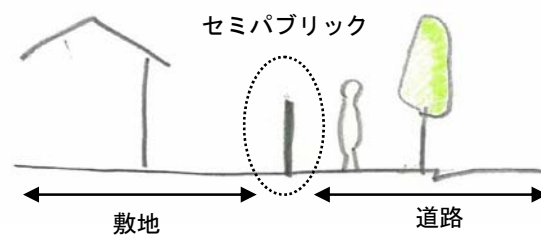
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



左上：生け垣が連続する街並み（住宅地）

右：オープン外構の街並み（住宅地）

下：高低差を利用した「しきり」集落）



敷地と道路が接する「敷際」は、プライベートとパブリックのつなぎ目で、いわば「セミパブリック」な空間です。

際の「しきり」方によっては、プライベートとパブリックを「やわらかく」しきったり、「かたく」しきったりでき、その一軒一軒のしきり方が通りの印象に大きく影響します。また隣の敷地の敷際と、緑や壁面でうまくつながれば、一体感のある通りを演出できます。

敷際のしきりの雰囲気が全体として調和している通りは、印象的なまちなみになります。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- プライベートが見えなくするという視点だけでなく、通りをどういう印象にしたいのかも意識して考えましょう。集落ではやわらかいしきりにして親密な印象に、敷地規模の比較的大きい住宅地ではかたいしきりにして風格ある印象にするなど、通りの特徴によってしきり方を工夫しましょう。
- 連続感のある心地よい通りになるよう、緑やちょっとした空間などの配置を工夫して、隣近所の敷地と積極的に「つなぐ」ことを心がけましょう。



コラム：ほどよい「しきり」って？

敷際は、パブリックとプライベートのつなぎ目にあたります。

敷際に何も置かなければ、個人の生活があげすけに目についてしまいます。一方で、塀や垣で完全に遮蔽してしまうと、通りを行き交う人に圧迫感を与えてしまいます。

材料や設置方法は色々ありますが、暮らしの露出をある程度避けつつ、暮らしの息遣いは伝わるような、そんなしきりが理想的です。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

敷地の内と外で、つながりを育む「しきり」に。

- 敷地の内と外でお互いの様子が分かる程度に、柵や塀、樹木などは隙間のあるものにするか高さを押さえましょう。
- 通りを往来する人とのコミュニケーションのきっかけになる仕掛けとして、花を配置するなどして演出してみましょう。



みんなで工夫

敷地の工夫は、みんなでやると効果大。

- 通りに住む人たちが、しきりとつながぎを考えていけば、通りの印象は大きく変わります。一人ひとりの心がけを、言葉として表しルールにしておけば、新たに住むことになった人にも、理解しやすくなります。



緑地協定等の制度を使ってルールをつくり、みんなで力を合わせて、気持ちのよい通りの景観にしていけることができます。

設計・計画で工夫

しきりとつながぎは、周りの敷地とのバランスで。

- 親密な雰囲気のある住宅地では、塀や垣でしきる時は、「やわらかい」雰囲気のしきりになるようにしましょう。敷地規模が大きく風格のある住宅地では、周りを見ながら「かたい」雰囲気のしきりを取り入れましょう。
- 近隣の敷地の敷際を見て、緑の連続やちょっとしたスペースの連続、壁面の連続など、いいつなぎ方があるかを考えましょう。

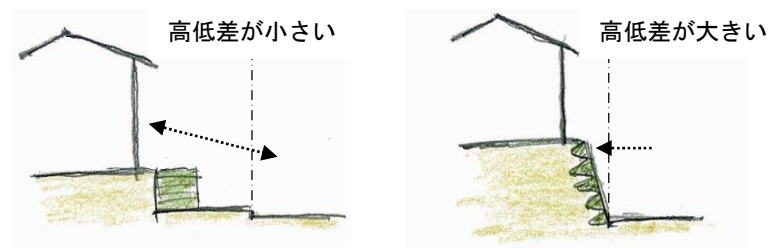
【「しきり」の方法】

やわらかいしきり ← → かたいしきり

緑でしきる



高低差でしきる

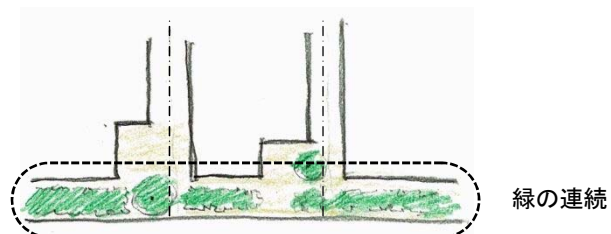


塀や垣でしきる

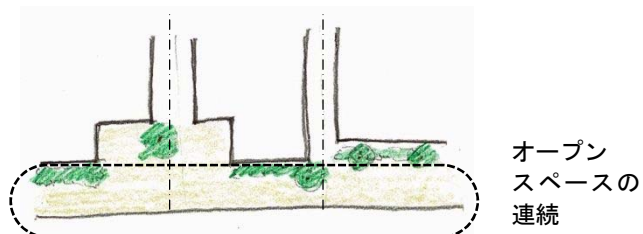


【「つなぎ」の方法】

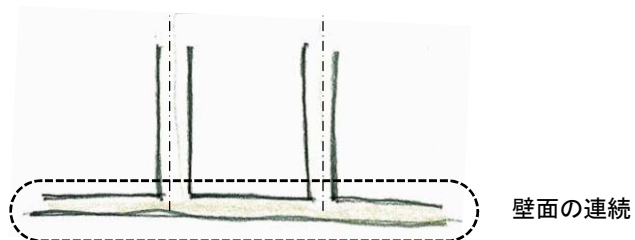
緑でつなぐ



オープンスペースでつなぐ



壁面でつなぐ



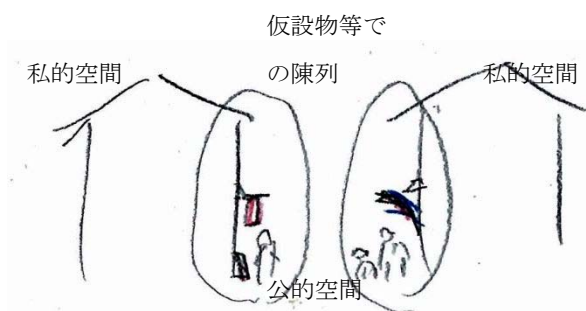
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



お店が並び、人が行き交い、にぎわう商店街

昔から、商店街では、お店が道に面して商品を並べ、道行くお客さんに対してコミュニケーションを取りながら商売をしてきました。

道路（公の空間）と店舗（私の空間）の中間の領域で、商品を陳列したり、季節感のある飾りや花で演出したりといった「にじみ出し」が生まれ、そこで売り子が客とコミュニケーションを取る光景が、昔から続くにぎわいの景観として地域になじんでいます。



* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○商店が並ぶ通りでは、商品の陳列や軒先の飾り付け、売り子のコミュニケーションといったにじみ出しの要素が、通りに表れてくるようなしつらえとしましょう。

○にぎわいが途絶えないようにできるだけお店が連なるようにし、内部が全く見えないなどにじみ出しがうかがえないようなしつらえは避けましょう。

コラム：にじみ出しの暗黙のルール？

びっくり通りの商店街のにじみ出しを観察していると、ちょうど「タイル3枚分」で
ある程度統一されているようにも見えます。

商店街の方のお話では、きちんと決めているわけではないが、それ以上にじみ出すと
通行の迷惑になったりするので、暗黙のルールのような形で皆が守っているのではない
か、ということでしたが、真偽のほどはいかに・・・??

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

「店」＝「見世棚」。通りを行き交う人に見て楽しんでもらいましょう。

○「店」という言葉は、商品を並べて客に見せる「見世棚」に由来するという説もあります。

○お店から通りへののにじみ出しは、お客さんとお店をつなぐ場でもあり、商店街ならではの特徴でもあります。

○行き交う人を楽しんでもらう、そんな見せ方ができれば、通りの景観もいきいきとしてきますね。



思わず目を奪われ、足をとめてしまいますね



100 円商店街の様子
売り子と客の親密なコミュニケーション

みんな で工夫

ディスプレイや飾り付けで季節感を演出しましょう。

○七夕やクリスマスなど、四季の様子を感じられるディスプレイや飾り付けがあれば、訪れる人も心躍ります。

○まち全体で、そんなもてなしの雰囲気が生まれるといいですね。



七夕の飾り付けで、季節感を楽しむことができますし、通り全体の統一感も生まれます

見せ方には節度を持って。ある程度のルールは必要？

○それぞれのお店が好き勝手に見せたのでは、ごちゃごちゃしすぎたり、通行の邪魔になったりしてしまいます。

○お店の前はきれいに掃除する、通行の妨げになるようなものは置かない、隣にはみ出さない、など、ある程度のルールは必要かも。

設計・
計画で
工夫

通りとの関係や横の連なりを考えたデザインにしましょう。

○いきいきとしたにぎわいが大事な商店街では、店と通りとの関係、店同士の横の連なりを考えたデザインにすることが必要です。

○店と通りの関係では、にじみ出しの要素が表れるような工夫が、横の連なりでは、にぎわいが断絶しない、歩いていて楽しいと思えるような工夫が求められます。

【通りとの関係】



店の外に商品を陳列しPRする店舗（カフェ）



通りから中の様子がうかがえるウィンドウ



中の様子もまちなみの一部に



メニューを店外に掲出している

【横の連なり】



軒先が連なるようなデザインの工夫を



のれんなどでつなぐ方法も

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒駅北口：アントレいこま2・駅前広場



生駒駅北口：第4地区商業エリア

<生駒駅>

地区全体の景観形成の基本方針として、生駒の玄関口としてふさわしいにぎわいとうるおいが感じられるまちづくり、山なみと調和する良好な眺望景観に配慮したまちづくりなどが位置づけられています。



学研奈良登美ヶ丘駅：駅南口の景観



学研奈良登美ヶ丘駅：駅南口の景観

<学研奈良登美ヶ丘駅>

奈良市と接しており、土地区画整理事業により平成18年3月に新しい市街地が生まれました。

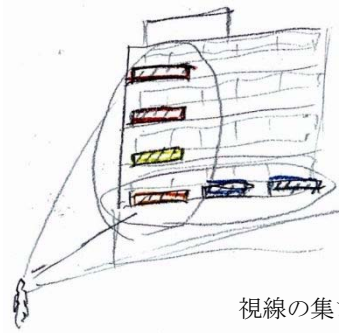
屋外広告物はどうしても、大きくし、派手に目立たせることが重視されますが、駅前や新しい市街地を中心に、人の見やすい場所に統一させた形で絞り込んで配置する例も見られます。この方が、結果的に情報が整理され見やすくなっていますし、落ち着きのある住宅地としてのイメージづくりにも寄与しています。

繰り返し訪れることが多い空間では、それほど目立たせなくても、何度も目にすることで情報は伝わります。掲出されている企業や店舗の印象を高める、イメージアップにもつながります。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○広告物は、人の視線が集まりやすく、掲出に効果的な場所（優位置）を探し出し、できるだけ統一した規格で整理して掲出するようにしましょう。



視線の集まりやすい場所に配置し、情報を整理

○広告物に掲載する情報はできるだけ絞り込み、乱雑な印象を与えないように配慮しましょう。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

みんな で工夫

駅前に面する広告のデザインのルール、考えてみませんか？

- 顔となる整った空間となるように、掲げる広告についてルールを決めておくことができます。
- すでに、市内ではいくつかのルールが定められています。気持ちの良い顔の空間とするために取り組んでみませんか。



<学研奈良登美ヶ丘駅周辺

景観保全型広告整備地区>

新しいまちにふさわしい広告景観づくりを行うために、平成 17 年 4 月に導入されました。

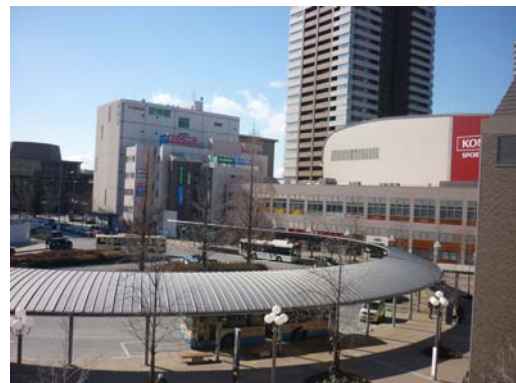
広告を掲げる場合は、事前に奈良市と相談して、表示の場所、形、面積や色などについて調整をしています。

設計・ 計画で 工夫

落ち着いた住宅地のイメージを大切にしつつ、 駅前など人が行き交う空間では、洗練されたデザインを。

- 駅前では多くの人が行き交う場所であり、ある程度の広告は必要なものです。しかし、乱雑な掲げ方をしては生駒のイメージそのものが台なしになってしまいます。
- 特に、駅前は何度も訪れる人が多い場所ですので、何度も見るにふさわしいデザインが求められています。

【広告物の掲出】



面積を抑え、落ち着いた駅前の雰囲気演出
しています



【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



白庭台駅：駅前の景観



白庭台駅：駅前の景観

＜白庭台駅＞

白庭台住宅地の玄関口として駅舎や駅前広場が整備されました。周辺の商業施設や公共施設、共同住宅などはこれらと調和するようデザインされています。

地域内には様々なデザインの建物がありますが、どこかに共通するものがあることで景観のまとまりが生まれます。個々の建物がそれぞれの個性を表現しながらも、地域で核となる建物と協調したデザインを採り入れることで、多様性とまとまりのある景観をつくることができます。

近接した建物のデザインが、連歌のように少しずつ形を変えながら順次継承されていくことで、自然なまとまりが形成されていきます。

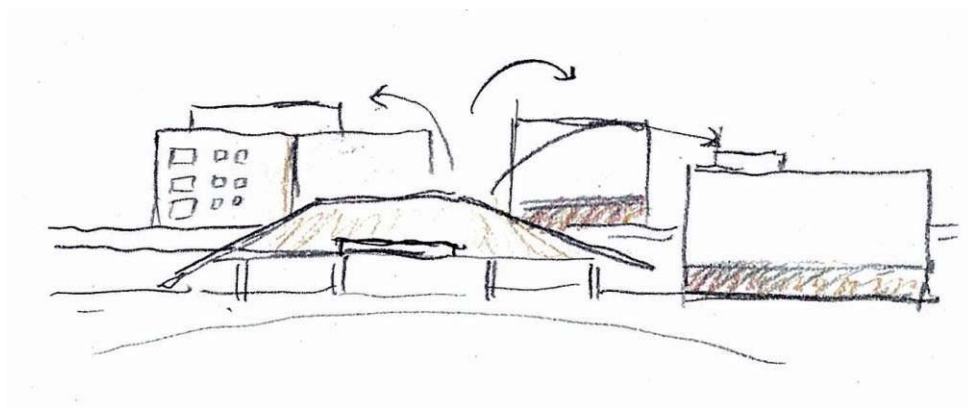
(連歌・・・和歌の上の句(五・七・五)と、下の句(七・七)を多数の人たちが交互に作り、ひとつの詩になるように競い合って楽しむ文芸)

コラム：連歌についてのよみもの

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 建物は周囲の建物を見て調和するようにデザインしましょう。
- 地域の核となる建物のデザインの特徴を読みとり、その一部を継承したり、すでにデザインを継承した建物が近接している場合には、その建物との関連性にも配慮したデザインとしましょう。



駅舎のデザインに合わせて周辺の建物をデザインする

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

街並みはみんなのものです。

○私たちの暮らしがお互いさまの関係で成り立っているように、あなたの家も周囲の建物がつくる街並みの中にあります。街並みはみんなのものといえます。あなたの家も地域の景観とつながっていることを意識しましょう。



街路樹と同じ樹種の樹木が敷地内にも植栽され、地域の景観とのつながりを感じさせます。

○通りに面して緑を飾るときなどは、お隣の緑と連続するような位置にしたり、関連のある樹種にすることで連続感が生まれます。



通りに面して飾られた花が連続して花いっぱいの通りになっています。
(宝塚)

みんなで工夫

通りや地域の特徴をみんなで共有しましょう。

○通りや地域にどんな特徴があるのか、またデザインの核となっているような建物などがあるのか、地域のみんなで共有することから始めましょう。

○商店街などでは、街並みの特徴を新しく創り出していくことも考えてみましょう。

デザインする前に周囲をよく見て良い部分を探しましょう。

○建物をデザインする前には、周囲にどんな建物があるのかよく見ましょう。駅舎や公共施設など、デザインの核となる建物や、周囲にある建物のデザインの良い部分を探し、それらとの関係を考えてデザインしましょう。



劇場のデザインのイメージを周辺のマンションが継承してまとまりのある景観をつくっています。(宝塚)

○周囲の建物と単純に同じ形態にするのではなく、継承すべき要素を考え、それを建物のデザインに活かす工夫をすることでその場所にふさわしい個性を生み出すことができます。



全く異なる意匠や材質ですが、通りに沿って共通する屋根の勾配や高さを継承しています。(川越)

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



駅前から続く商店街



坂道の旅館街



山上の寺院に到着

宝山寺参道の風景の変化

奥に何があるか見えないと私たちはその先にあるものを想像し、そこに期待感が生まれます。カーブしている場所や突き当りの場所など、見通せない場所では、視界が開ける予感が高まり、期待感が生まれます。

また、寺院の門前や神社の参道などの特有の雰囲気のある場所へと続く道のほか、多くの人が利用する公共施設などへのアクセス道路などでは、近づいていくにつれて徐々に気持ちが高まっていくような演出がしてあると、体験がより印象的なものとなります。また、こうした場所では、離れていくときにも余韻を楽しむことができます。

コラム：生駒駅前にあった宝山寺の一の鳥居

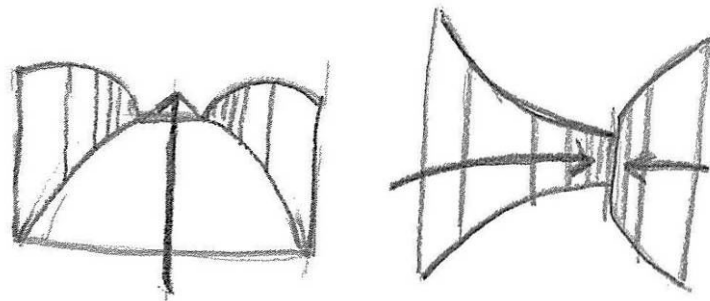
1977年南口鳥居



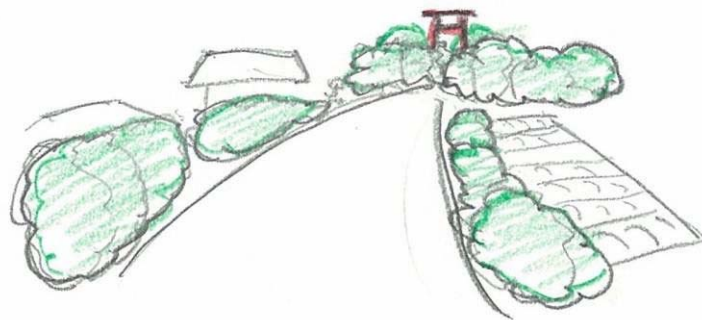
* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 通りに沿って連続的に変化する風景（シークエンス）を意識し、奥の空間への期待感が高まるよう、奥の空間の特徴を暗示するデザインとするなどの工夫をしましょう。
- 敷地内でも通りから直接施設が見えない配置にしたり、植栽による見え隠れを工夫することで期待感を高めるよう工夫しましょう。



連続する景色で通りの奥に視線や意識を誘導する



奥にあるものにふさわしいような、アプローチ（導入）部分

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

みんな
で工夫

○寺院や神社は地域で大切にされてきた神聖な場所です。門前や参道の雰囲気高めよう、通りに沿って演出しましょう。



近くに神社があることを暗示する石段のデザイン。

設計・
計画で
工夫

○通りから建物が直接見えないように軸線をずらして配置したり、手前に植栽をすることで奥行き感のある街並みを生み出すことができます。



門扉と玄関の位置をずらして、植栽のスペースを生み出しています。
(宝塚)

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう**【大和棟】**

奈良盆地一帯で見られる、大和棟。生駒南部の地域ではカマドのある土間の部分の屋根には煙出しを設け、防火上の理由などから一段高く本高塀（ホンタカヘイ）を設ける大和棟の形態の民家が多い。

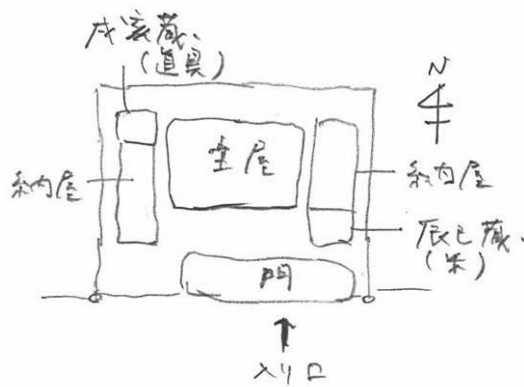
古くからの集落では、地域の風土に応じた暮らしの作法や生業の中で培われ、長い時間をかけて磨き上げられてきた伝統的な形があります。それは敷地内の建物の配置であったり、建物内部の構成、立面の意匠であったりと様々なところに見られます。

これらの必要性から生まれパターン化された「用の美しさ」は多くの地域で共通のものもあり、また地域に固有のものもあります。

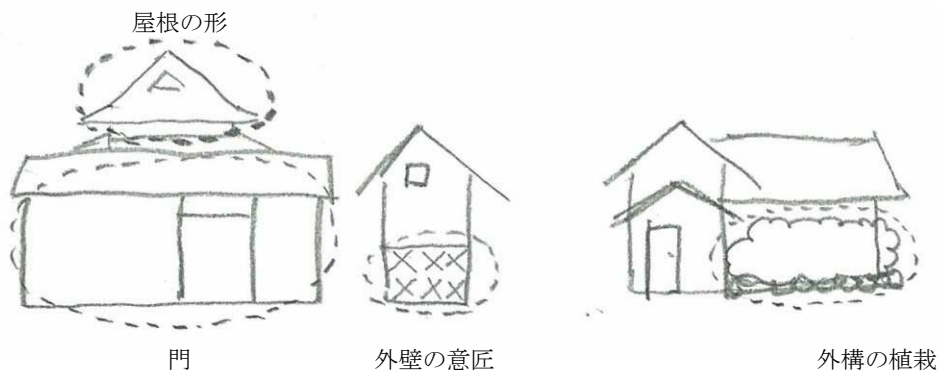
* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○人々の暮らしの中で培われパターン化されている伝統的な形態意匠は、その背景にある意味を認識した上で尊重しましょう。全面的に採用するばかりでなく、デザインモチーフとして一部を採用するなど、新たな使い方の工夫にも挑戦しましょう。



生駒市内に広く見られる建物の配置



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な 工夫

受け継がれてきた古いものの良さに気づく。

○長い年月の間に受け継がれてきたものには意味があります。古臭いというまえに、今の暮らしの中で生かせるところはないか考えてみましょう。

みんな で工夫

地域に多く見られるものをみんなで大切にする。

○地域内で多く見られるデザインは地域で大切にしましょう。地域にどんなデザインがあるかを専門家と一緒にさがすのもいいですね。

設計・ 計画で 工夫

伝統的なものを新しい視点からアレンジしましょう。

○伝統的なデザインの背景には意味があることが多いものです。こうした意味合いを理解して、新しい視点から捉え直してデザインしましょう。



伝統的な大和棟を現代の建物にアレンジしてデザインしています。

(檀原)

○過度な装飾やデザイン手法を駆使するのではなく、シンプルで形態の持つ本来の美しさを表現しましょう。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

東西方向の通り



生駒台

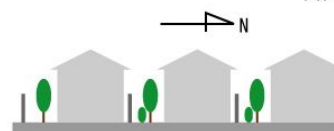
南北方向の通り



西白庭台



- ・敷地の南側に庭がとられることが多い
- ・庭の緑が通りに表出する



165㎡程度

- ・南北方向の街区の場合には、敷地内にまとまった緑のスペースを確保することが難しい



180㎡程度

- ・東西方向の街区の場合には、敷地の南側に小規模な緑のスペースを確保できる



210㎡程度

- ・敷地内の南側にまとまった緑を、また西側や東側にも小規模な緑のスペースを確保できる



480㎡程度

- ・敷地内の建物の周囲にまとまった緑を確保できる

敷地内では通常、日当たりを考慮して南側に植栽や庭が配置されます。このため、東西方向の通りでは、通りの北側に面する敷地の緑のボリュームが大きく、南側に面する敷地では少なくなりがちです。一方、南北方向の通りでは、沿道には連続的な緑が少なくなりがちです。また、敷地内に確保できる緑のボリュームや配置は敷地面積によって異なります。敷地面積が大きいと建物周囲の複数の面にまとまった緑を確保しやすくなります。

計画的に開発された住宅地が多い生駒では、こうした傾向が明確に現れた地域がたくさんあります。

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○緑の多いうるおいのある通りの街並みづくりを目指すときには、できる限り敷地面積を大きくし、また細分化を防ぐようにしましょう。



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

自分だけでなく通りを通る人も緑を楽しめるよう考えましょう。

○通りから見えるところをできるだけ緑化しましょう。植栽スペースがない場合には、フラワーポットを置くことで緑を確保出来ます。



マンションの窓辺に通りから見える
ように花を飾っています。(高槻)

○緑を飾るときには、家の中からの見え方ばかりでなく、通りからどのように見えるかも意識しましょう。



敷地内の庭の緑と緑化した擁壁が一
体となって通に緑が表出していま
す。(豊中)

みんな
で工夫

両隣で話し合って緑を連続させましょう。

○通りに面した部分をみんなで緑化すれば、より効果的です。両隣のお宅と話し合って、緑を飾ってみましょう。それが通り全体に広がれば緑いっぱいの街並みができあがります。



隣同士で通りに面して緑化すること
をルールとしてとり決めています。
(戸田)

設計・
計画で
工夫

植栽スペースは街並みを考えて。

○住宅地の開発の際は、土地利用の効率性とあわせて、植栽スペースの配置など、あらかじめ街並みを考えて敷地割を計画しましょう。



敷地境界部に植栽スペースを設けて
緑が連続するよう工夫しています。

(宝塚)

○敷地内には通りから見える位置に植栽スペースを設けたり、窓辺に花を飾れるような花台を設けるなどの工夫をしましょう。



店舗の窓辺に花を飾れるように花台
を設けています。(東京・千駄ヶ谷)

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

環境美化や自然保全、まちづくりの活動をはじめ、人の手が加わることでぬくもりのある、また生き生きとした景観が生まれます。地域の人々が近隣の道路や公園に花を飾ったり、清掃をしたりする事例が増えています。

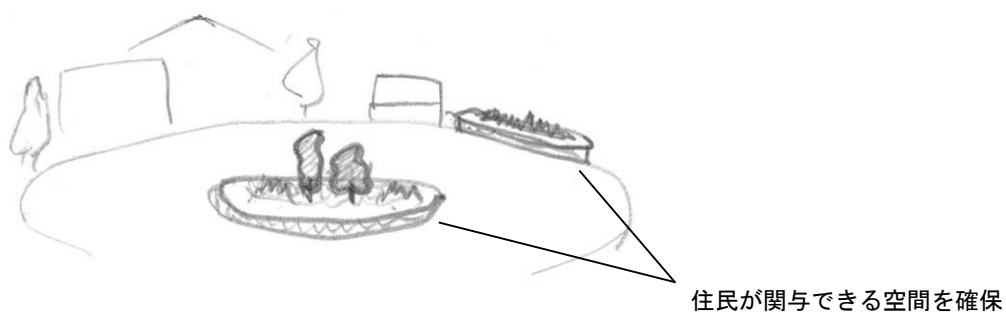
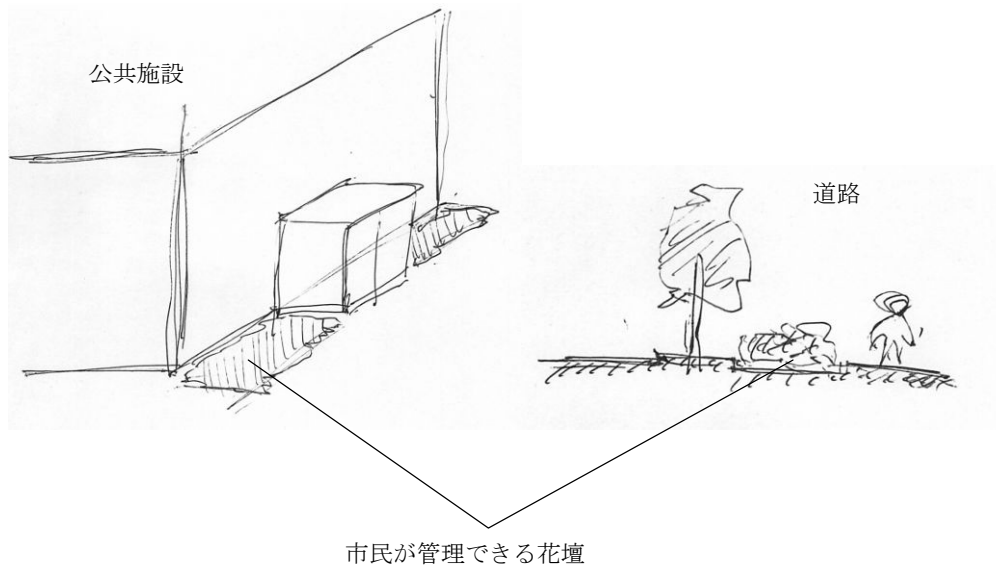


地域の人々によって飾られた駅前のプランター

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○公共建築や道路、公園などの公共空間ははじめから作り込みすぎず、市民が関われる余地を残しましょう。市民が植栽したり、自ら管理できる場所をつくりましょう。



【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な工夫

手入れが行き届いた街並みは生き活きと輝きます。

○美しく清掃された軒先や、手入れが行き届いた庭木は住んでいる人の人柄さえ感じさせることがあります。こうした暮らしぶりが通りに表出すると街並みが生き活きとしたものになります。



手入れの行き届いた生け垣が街並みの魅力を高めています。

みんなで工夫

地域の公共スペースをみんなで素敵な場所に変えましょう。

○地域にある公園や道路、公共施設などをみんなでもっと素敵な場所に変えましょう。清掃だけでなく、花壇などのスペースを地域住民の管理を住民に任せる例も増えています。市や県などと相談してみましょう。

○地域の公園はつくる時からみんなで考えれば、みんなが使いやすい公園にすることができるし、愛着も生まれます。つくった後もみんなで管理をして素敵な場所として維持していきましょう。



生駒市では地域の公園をリニューアルするときに、住民が参加して一緒に考えるコミュニティパーク事業という制度があります。自治会などで応募を考えてみてはどうでしょうか。

設計・
計画で
工夫

はじめから作り込み過ぎないで。

○建物は完成した直後の新しい状態が一番美しいとは限りません。例えば、住宅は住まい手がうまく住みこなしながら、手を入れることでより深みを増し、生き活きとした美しさが磨かれていくものではないでしょうか。このように、ユーザーや地域の人に関われるような余地を残しておきましょう。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒石による石積み



暗がり峠の石畳

生駒山の一带で産出されてきた生駒石は、表面の独特の風合いから庭石や石積みに好んで使われてきました。集落内の民家はもちろんのこと、生駒台や東生駒などの計画的に開発された住宅地内でも多く見ることができます。また、暗峠の石畳の石材としても使用されています。

地場産の材料を使うことは、運搬や施工の合理性とともに、地域の風土になじんだ景観をつくれます。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○風土に溶け込む地が生み出した材料を積極的に採用しましょう。生駒石を擁壁の石積みや庭石に用いる他、デザイン要素としての利用を考えましょう。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

設計・
計画で
工夫

生駒石を使う。

○石垣をつくるときはできるだけ生駒石を使いましょう。地場産の材料は地域の風景に一番なじみます。

○石垣以外にも庭石などいろいろな使い方を工夫をしてみましょう。



生駒石を使った石垣と生け垣



差し替え予定

生駒石の庭石

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

毎年めぐってくる年中行事や、人生の節目で訪れる儀礼などの伝統行事は、暮らしの中に根付いた文化として受け継がれてきました。また、自治会や商店街で催されるお祭りなども同様に、人々の手によって継承されてきました。これらの特別な時期には見慣れた風景も特別な装いを見せます。それは常に目にする日常の風景に対し、一時的に表れるハレの日の仮設の風景でもあります。

宝山寺のお彼岸万灯会では多くの蠟燭の明かりで参道から境内の周辺は幻想的な装いを見せます。



差し替え

宝山寺の万燈会

どんどこまつりの時期には駅前も提灯で飾られます。



差し替え

どんどこまつり

多くの買い物客で賑わう100円商店街では赤いのぼりで演出されます。



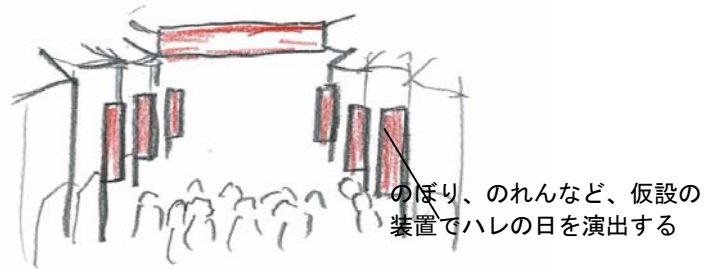
100円商店街

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○祭りが行われる神社の参道や神輿、だんじりのルートなど、伝統行事の舞台となる場所ではハレの日の演出ができるようあらかじめ考えたデザインとしましょう。

全体の統一感に気を配る
(メリハリをつける、過度にしすぎない)



のぼり、のれんなど、仮設の
装置でハレの日を演出する

○商店街ではイベント時に統一したバナーを飾るなど、通り全体でのにぎわいの演出を考えましょう。

○住宅地では近隣の人と協力して夜間のイルミネーションを飾るなど、暮らしの場を演出することもできます。



住宅地のイルミネーション（大阪）

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

みんな
で工夫

ハレの時を演出しましょう。

- 商店街でセールやイベントをやるときにはにぎわいを演出するような飾り付けをしましょう。バナーや暖簾ひとつで普段と雰囲気を変えることができます。



100 円商店街ののぼりと POP イベントに合わせたバナーの掲出（寝屋川）

設計・
計画で
工夫

演出できるしつらえを。

- ハレの飾り付けができるようしつらえましょう。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

一日のうちでも昼間～夕暮れ～夜間と時間帯によって刻一刻とまちの表情は移ろっていきます。また、晴れた日と雨の日でもまちの印象は変わります。季節によっても背景の自然や人々の営みが異なるため、まちの風景も違って見えます。

夜間には細かなところが見えないので、昼間の風景よりもすっきりと整理された印象となります。また、照明によって印象は大きく変わります。

写真：夜の風景
(サンマルク?)

雨の日などに建物や道路が濡れている時には晴れた日とは質感が異なって見えます。また空の色や陽の光の強さは見た目の風景の印象にも影響します。



宝山寺参道（晴れの日）



（雨の日）

山などの自然の風景や街路樹、公園の緑は季節によって異なる表情を見せます。

写真：春～夏の風景
(緑の街路樹)



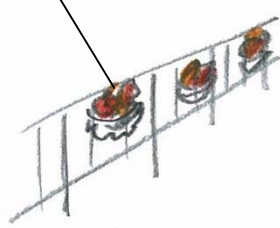
鹿の台の街路樹（秋～冬の風景）

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○紅葉する樹木や落葉する樹木、実のなる樹木など季節感を感じられる樹木、あるいは花の植栽による季節感の演出に配慮しましょう。

花卉などで季節感を演出する



○店舗などは夜の装いを考えた夜間照明を工夫しましょう。安全上必要な明るさを確保しつつも、必要以上に明るすぎず、陰影による効果的な演出を心がけましょう。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な
工夫

季節感を意識しましょう。

○通りから見えるところに季節の花を飾ると、道行く人も季節を感じることができます。



玄関先に季節感のある花を飾っています。

(宝塚)

○庭木として通りから見える位置に花の咲く木や実のなる木を植えると季節感を演出できます。



花の咲く木（交野）



実のなる木（吹田）

○お店では閉店時の見え方も意識しましょう。閉店後も部分的にショーケースを照らすことなども考えてみましょう。

設計・
計画で
工夫

光源や照明手法を工夫しましょう。

○間接照明や複数の光源を効果的に用いることで立体感を表現することができます。



複数の光源によって建物を立体的に演出しています。

(東京・代官山)



敷地内の植栽を効果的にライトアップしています。

(大阪・OBP)



花の咲く木は街並みを彩るだけでなく季節感を感じさせます。

時間とともに味わいが深まります。

○石材や木材などの自然素材などを用いて、時間とともに風合いを深めるエイジング効果を考えてデザインしましょう。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

私たちは同じ風景を見ても、一人ひとりの経験や知識によって心に浮かんでくるものや記憶に残るものは異なります。それぞれの心に残るものこそが景観であるとも言えます。多くの人の記憶に共通して残るなつかしい風景は生駒のイメージをつくるものであり、大切にしていく必要があります。

学校の校歌や校章には、後世に伝えていきたいふるさとの風土への思いが託されてきました。また、古くからの地名の中には先人が土地に対して抱いた印象や思いが語り継がれてきたものがたくさんあります。これらは多くの人が持っている記憶の風景を探る手がかりとなります。

コラム：小学校の校歌に込められた風景の記憶

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 地域に根ざした景観をつくっていくために、先人が伝えてきた風土への思いを確認しましょう。そして、それぞれの場所の性格に応じて印象的な風景の要素となるデザインを工夫しましょう。それが多くの人の記憶に残る景観をつくれます。
- 場所の記憶を継承していくため、空間の構成を大きく変えないように配慮したり、かつての風景をイメージさせる手がかりとなるものを残すなどの工夫を考えましょう。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

身近な 工夫

思い出の場所を大切に。

○家族や大切な人との思い出のある場所は特別な場所ですね。特別な場所がたくさんあればまちへの思いも深みを増して愛着も高まります。

みんな で工夫

私の記憶を私たちの記憶に。

○個々人が大切にしているまちの記憶を、みんなが共有することができます。思い出の写真を集めてその場所を地図に落とせば、みんなの記憶マップができます。

設計・ 計画で 工夫

場所の記憶を引き継ぐ。

○建物を改修するときは、もともとの建物の印象を継承すると場所の記憶を継承することができます。



もともとの建物のデザインを継承して改修された店舗。

○みんなの記憶にあるものはできるだけ残しましょう。そのまま残すだけでなく、象徴的な形や空間の特徴を継承するなど工夫しましょう。



かつての線路の形状をシンボル化して公園に埋め込んでいます。
(西宮)